

第十四 日本の聯盟脫退回顧

脫退通告文

(昭和八年三月二十七日、外務大臣ヨリ國際聯盟事務總長ニ通告)

帝國政府ハ東洋平和ヲ確保シ延イテ世界ノ平和ニ貢獻セ
ントスル帝國ノ國是カ各國間ノ平和安寧ヲ企圖スル國際
聯盟ノ使命ト其ノ精神ヲ同シウスルコトヲ認メ過去十有
三年ニ互リ原聯盟國トシテ又常任理事國トシテ此ノ崇高
ナル目的ノ達成ニ協力シ來リタルヲ欣快トスルモノナリ
而シテ其ノ間帝國力常ニ他ノ如何ナル國ニモ劣ラサル熱
誠ヲ以テ聯盟ノ事業ニ參畫セルハ嚴トシテ動カスヘカラ
サル事跡ナルト同時ニ帝國政府ハ現下國際社會ノ情勢ニ
鑑ミ世界諸地方ニ於ケル平和ノ維持ヲ計ランカ爲ニハ此
等各地方ノ現實ノ事態ニ即シテ聯盟規約ノ運用ヲ行フヲ

要シ且斯ノ如キ公正ナル方針ニ則リ初テ聯盟力其ノ使命
ヲ全ウシ其ノ權威ノ増進ヲ期シ得ヘキヲ確信セリ、
昭和六年九月日支事件ノ聯盟付託ヲ見ルヤ帝國政府ハ終
始右確信ニ基キ聯盟ノ諸會議其ノ他ノ機會ニ於テ聯盟力
本事件ヲ處理スルニ公正妥當ナル方法ヲ以テシ眞ニ東洋
平和ノ増進ニ寄與スルト共ニ其ノ威信ヲ顯揚センカ爲ニ
ハ同方面ニ於ケル現實ノ事態ヲ的確ニ把握シ該事態ニ適
應シテ規約ノ運用ヲ爲スノ肝要ナルヲ提唱シ就中支那カ
完全ナル統一國家ニ非スシテ其ノ國內事情及國際關係ハ
複雜難澁ヲ極メ變則、例外ノ特異性ニ富メルコト從テ一
般國際關係ノ規準タル國際法ノ諸原則及慣例ハ支那ニ付
テハ之カ適用ニ關シ著シキ變更ヲ加ヘラレ其ノ結果現ニ
特殊且異常ナル國際慣行成立シ居レルコトヲ考慮ニ入ル
ルノ絶對ニ必要ナル旨力説強調シ來レリ

然ルニ過去十七箇月間聯盟ニ於ケル審議ノ經過ニ徴スル

ニ多數聯盟國ハ東洋ニ於ケル現實ノ事態ヲ把握セサルカ
又ハ之ニ直面シテ正當ナル考慮ヲ拂ハサルノミナラス聯
盟規約其ノ他ノ諸條約及國際法ノ諸原則ノ適用殊ニ其ノ
解釋ニ付帝國ト此等聯盟國トノ間ニ屢重大ナル意見ノ相
違アルコト明カトナレリ其ノ結果本年二月二十四日臨時
總會ノ採擇セル報告書ハ帝國カ東洋ノ平和ヲ確保セント
スル外何等異圖ナキノ精神ヲ顯ミサルト同時ニ事實ノ認
定及之ニ基ク論斷ニ於テ甚シキ誤謬ニ陥リ就中九月十八
日事件當時及其ノ後ニ於ケル日本軍ノ行動ヲ以テ自衛權
ノ發動ニ非スト憶斷シ又同事件前ノ緊張狀態及事件後ニ
於ケル事態ノ惡化カ支那側ノ全責任ニ屬スルヲ看過シ爲
ニ東洋ノ政局ニ新ナル紛糾ノ因ヲ作レル一方滿洲國成立
ノ真相ヲ無視シ且同國ヲ承認セル帝國ノ立場ヲ否認シ東
洋ニ於ケル事態安定ノ基礎ヲ破壊セントスルモノナリ殊
ニ其ノ勸告中ニ掲ケラレタル條件カ東洋ノ康寧確保ニ何
等貢獻シ得サルハ本年二月二十五日帝國政府陳述書ニ詳

述セル所ナリ

之ヲ要スルニ多數聯盟國ハ日支事件ノ處理ニ當リ現實ニ
平和ヲ確保スルヨリハ適用不能ナル方式ノ尊重ヲ以テ一
層重要ナリトシ又將來ニ於ケル紛争ノ禍根ヲ芟除スルヨ
リハ架空的ナル理論ノ擁護ヲ以テ一段貴重ナリトセルモ
ノト見ルノ外ナク他面此等聯盟國ト帝國トノ間ノ規約其
ノ他ノ條約ノ解釋ニ付重大ナル意見ノ相違アルコト前記
ノ如クナルヲ以テ茲ニ帝國政府ハ平和維持ノ方策殊ニ東
洋平和確立ノ根本方針ニ付聯盟ト全然其ノ所信ヲ異ニス
ルコトヲ確認セリ仍テ帝國政府ハ此ノ上聯盟ト協力スル
ノ餘地ナキヲ信シ聯盟規約第一條第三項ニ基キ帝國カ國
際聯盟ヨリ脫退スルコトヲ通告スルモノナリ

國際聯盟諸機關トノ協力終止 ニ關スル通告文

(昭和十三年十一月二日國際會議帝國事務局長ヨリ國際聯盟事務
總長ニ通告)

本官ハ帝國政府ノ訓令ニ依リ九月三十日國際聯盟理事會
カ國際聯盟規約第十七條第三項ニ基キ第十六條ノ規定ハ
帝國ニ適用セラレ得ヘシトスル報告ヲ採擇シタル結果新
ニ帝國ト國際聯盟トノ間ニ發生シタル事態ニ鑑ミ帝國ハ
國際聯盟脫退後繼續シ來レル帝國ノ國際聯盟諸機關ニ對
スル協力ヲ終止スルコトニ決定シタル旨茲ニ貴下ニ通告
スルノ光榮ヲ有ス

(參考一) 國際聯盟規約

(ヴェルサイユ平和條約第一編)

締約國ハ

戰爭ニ訴ヘサルノ義務ヲ受諾シ

各國間ニ於ケル公明正大ナル關係ヲ規律シ

各國政府間ノ行爲ヲ律スル現實ノ規準トシテ國際法ノ原
則ヲ確立シ

組織アル人民ノ相互ノ交渉ニ於テ正義ヲ保持シ且嚴ニ一
切ノ條約上ノ義務ヲ尊重シ

以テ國際協力ヲ促進シ且各國間ノ平和安寧ヲ完成セムカ爲
茲ニ國際聯盟規約ヲ協定ス

第一條 (一) 本規約附屬書列記ノ署名國及留保ナクシテ

本規約ニ加盟スル該附屬書列記ノ爾餘諸國ヲ以テ國際聯
盟ノ原聯盟國トス右加盟ハ本規約實施後二月以内ニ宣言
書ヲ聯盟事務局ニ寄託シテ之ヲ爲スヘシ右ニ關シテハ一

切ノ他ノ聯盟國ニ通告スヘキモノトス

(二) 附屬書ニ列記セサル國、領地又ハ殖民地ニシテ完
全ナル自治ヲ有スルモノハ其ノ加入ニ付聯盟總會三分ノ
二ノ同意ヲ得ルニ於テハ總テ聯盟國ト爲ルコトヲ得但シ
其ノ國際義務遵守ノ誠意アルコトニ付有效ナル保障ヲ與
ヘ且其ノ陸海及空軍ノ兵力其ノ他ノ軍備ニ關シ聯盟ノ定
ムルコトアルヘキ準則ヲ受諾スルコトヲ要ス

(三) 聯盟國ハ二年ノ豫告ヲ以テ聯盟ヲ脫退スルコトヲ
得但シ脫退ノ時迄ニ其ノ一切ノ國際上及本規約上ノ義務
ハ履行セラレタルコトヲ要ス

第二條 本規約ニ依ル聯盟ノ行動ハ聯盟總會及聯盟理事會
並附屬ノ常設聯盟事務局ニ依リテ之ヲ爲スヘキモノトス
第三條 (一) 聯盟總會ハ聯盟國ノ代表者ヲ以テ之ヲ組織
ス

(二) 聯盟總會ハ聯盟本部所在地又ハ別ニ定ムルコトヲ
ルヘキ地ニ於テ定期ニ及必要ニ應シ臨時ニ之ヲ開ク

(三) 聯盟總會ハ聯盟ノ行動範圍ニ屬シ又ハ世界ノ平和

第十四 日本ノ聯盟脫退回願 (參考一) 國際聯盟規約

ニ影響スル一切ノ事項ヲ其ノ會議ニ於テ處理ス

(四) 聯盟國ハ聯盟總會ノ會議ニ於テ各一箇ノ表決權ヲ
有スヘク且三名ヲ超エサル代表者ヲ出スコトヲ得

第四條 (一) 聯盟理事會ハ主タル同盟及聯合國ノ代表者
並他ノ四聯盟國ノ代表者ヲ以テ之ヲ組織ス該四聯盟國ハ
聯盟總會其ノ裁量ニ依リ隨時之ヲ選定ス聯盟總會カ第一
次ニ選定スル四聯盟國ニ於テ其ノ代表者ヲ任命スル迄ハ
白耳義國、伯刺西爾國、西班牙國及希臘國ノ代表者ヲ以
テ聯盟理事會員トス

(二) 聯盟理事會ハ聯盟總會ノ過半數ノ同意アルトキハ
聯盟理事會ニ常ニ代表者ヲ出スヘキ聯盟國ヲ追加指定ス
ルコトヲ得聯盟理事會ハ同會ニ代表セシムル爲聯盟總會
ノ選定スヘキ聯盟國ノ數ヲ前同様ノ同意ヲ以テ増加スル
事ヲ得

(二ノ一) 聯盟總會ハ聯盟理事會非常任代表國ノ選舉ニ
關スル規則特ニ其ノ任期及再選ノ條件ニ關スル規則ヲ三
分ノ二ノ多數ニ依リ定ムヘシ

(三) 聯盟理事會ハ聯盟本部所在地又ハ別ニ定ムルコトアルヘキ地ニ於テ必要ニ應シ隨時ニ且少クトモ毎年一回之ヲ開ク

(四) 聯盟理事會ハ聯盟ノ行動範圍ニ屬シ又ハ世界ノ平和ニ影響スル一切ノ事項ヲ其ノ會議ニ於テ處理ス

(五) 聯盟理事會ニ代表セラレサル聯盟各國ハ特ニ其ノ利益ニ影響スル事項ノ審議中聯盟理事會會議ニ理事會員トシテ列席スル代表者一名ノ派遣ヲ招請セラルヘシ

(六) 聯盟理事會ニ代表セララルル聯盟各國ハ聯盟理事會會議ニ於テ一箇ノ表決權ヲ有スヘク且一名ノ代表者ヲ出スコトヲ得

第五條

(一) 本規約中又ハ本條約ノ條項中別段ノ明文アル場合ヲ除クノ外聯盟總會又ハ聯盟理事會ノ會議ノ議決ハ其ノ會議ニ代表セララルル聯盟國全部ノ同意ヲ要ス

(二) 聯盟總會又ハ聯盟理事會ノ會議ニ於ケル手續ニ關スル一切ノ事項ハ特殊事項調査委員ノ任命ト共ニ聯盟總會又ハ聯盟理事會之ヲ定ム此ノ場合ニ於テハ其ノ會議ニ

代表セララルル聯盟國ノ過半數ニ依リテ之ヲ決定スルコトヲ得

(三) 聯盟總會ノ第一回會議及聯盟理事會ノ第一回會議ハ亞米利加合衆國大統領之ヲ招集スヘシ

第六條 (一) 常設聯盟事務局ハ聯盟本部所在地ニ之ヲ設置ス聯盟事務局ニハ事務總長一名並必要ナル事務官及屬員ヲ置ク

(二) 第一次ノ事務總長ハ附屬書ニ之ヲ指定シ爾後ノ事務總長ハ聯盟總會過半數ノ同意ヲ以テ聯盟理事會之ヲ任命ス

(三) 聯盟事務局ノ事務官及屬員ハ聯盟理事會ノ同意ヲ以テ事務總長之ヲ任命ス

(四) 事務總長ハ聯盟總會及聯盟理事會ノ一切ノ會議ニ於テ其ノ資格ニテ行動ス

(五) 聯盟ノ經費ハ聯盟總會ノ決定スル割合ニ從ヒ聯盟國之ヲ負擔ス

第七條 (一) 聯盟本部所在地ハ「ジュネーヴ」トス

(二) 聯盟理事會ハ何時タリトモ其ノ議決ニ依リ他ノ地ヲ以テ聯盟本部所在地ト爲スコトヲ得

(三) 聯盟ニ關シ又ハ之ニ附帶スル一切ノ地位ハ聯盟事務局ノ地位ト共ニ男女均シク之ニ就クコトヲ得

(四) 聯盟國代表者及聯盟職員ハ聯盟ノ事務ニ從事スル間外交官ノ特權及免除ヲ享有ス

(五) 聯盟、聯盟職員又ハ聯盟會議參列代表者ノ使用スル建物其ノ他ノ財產ハ之ヲ不可侵トス

第八條

(一) 聯盟國ハ平和維持ノ爲ニハ其ノ軍備ヲ國ノ安全及國際義務ヲ協同動作ヲ以テスル強制ニ支障ナキ最低限度迄縮少スルノ必要アルコトヲ承認ス

(二) 聯盟理事會ハ各國政府ノ審議及決定ニ資スル爲各國ノ地理的地位及諸般ノ事情ヲ參酌シテ軍備縮少ニ關スル案ヲ作成スヘシ

(三) 該案ハ少クトモ十年毎ニ再審議ニ付セラルヘク且更正セラルヘキモノトス

(四) 各國政府前記ノ案ヲ採用シタルトキハ聯盟理事會

ノ同意アルニ非サレハ該案所定ノ軍備ノ限度ヲ超ユルコトヲ得ス

(五) 聯盟國ハ民業ニ依ル兵器彈藥及軍用器材ノ製造カ重大ナル非議ヲ免レサルモノナルコトヲ認ム仍テ聯盟理事會ハ該製造ニ伴フ弊害ヲ防遏シ得ヘキ方法ヲ具申スヘシ尤モ聯盟國中其ノ安全ニ必要ナル兵器彈藥及軍用器材ヲ製造シ得サルモノノ需要ニ關シテハ相當斟酌スヘキモノトス

(六) 聯盟國ハ其ノ軍備ノ規模、陸海及空軍ノ企畫並軍事上ノ目的ニ供用シ得ヘキ工業ノ狀況ニ關シ充分ニシテ隔意ナキ報道ヲ交換スヘキコトヲ約ス

第九條 第一條及第八條ノ規定ノ實行並陸海及空軍問題全般ニ關シテハ聯盟理事會ニ意見ヲ具申スヘキ常設委員會ヲ設置スヘシ

第十條 聯盟國ハ聯盟各國ノ領土保全及現在ノ政治的獨立ヲ尊重シ且外部ノ侵略ニ對シ之ヲ擁護スルコトヲ約ス右侵略ノ場合又ハ其ノ脅威若ハ危險アル場合ニ於テハ聯盟

理事會ハ本條ノ義務ヲ履行スヘキ手段ヲ具申スヘシ

第十一條

(一) 戰爭又ハ戰爭ノ脅威ハ聯盟國ノ何レカニ直接ノ影響アルト否トヲ問ハス總テ聯盟全體ノ利害關係事項タルコトヲ茲ニ聲明ス仍テ聯盟ハ國際ノ平和ヲ擁護スル爲適當且有效ト認ムル措置ヲ執ルヘキモノトス此ノ種ノ事變發生シタルトキハ事務總長ハ何レカノ聯盟國ノ請求ニ基キ直ニ聯盟理事會ノ會議ヲ招集スヘシ

(二) 國際關係ニ影響スル一切ノ事態ニシテ國際ノ平和又ハ其ノ基礎タル各國間ノ良好ナル了解ヲ攪亂セムトスル虞アルモノニ付聯盟總會又ハ聯盟理事會ノ注意ヲ喚起スルハ聯盟各國ノ友誼的權利ナルコトヲ併セテ茲ニ聲明ス

第十二條

(一) 聯盟國ハ聯盟國間ニ國交斷絶ニ至ルノ虞アル紛争發生スルトキハ當該事件ヲ仲裁裁判若ハ司法的解決又ハ聯盟理事會ノ審査ニ付スヘク且仲裁裁判官ノ判決後若ハ司法裁判ノ判決後又ハ聯盟理事會ノ報告後三月ヲ經過スル迄如何ナル場合ニ於テモ戰爭ニ懸ヘサルコト

ヲ約ス

(二) 本條ニ依ル一切ノ場合ニ於テ仲裁裁判官ノ判決又ハ司法裁判ノ判決ハ相當期間内ニ、聯盟理事會ノ報告ハ紛争事件付託後六月以内ニ之ヲ爲スヘシ

第十三條

(一) 聯盟國ハ聯盟國間ニ仲裁裁判又ハ司法的解決ニ付シ得ト認ムル紛争ヲ生シ其ノ紛争カ外交手段ニ依リテ満足ナル解決ヲ得ルコト能ハサルトキハ當該事件全部ヲ仲裁裁判又ハ司法的解決ニ付スヘキコトヲ約ス

(二) 條約ノ解釋、國際法上ノ問題、國際義務ノ違反トナルヘキ事實ノ存否竝該違反ニ對スル賠償ノ範圍及性質ニ關スル紛争ハ一般ニ仲裁裁判又ハ司法的解決ニ付シ得ル事項ニ屬スルモノナルコトヲ聲明ス

(三) 審理ノ爲紛争事件ヲ付託スヘキ裁判所ハ第十四條ノ規定ニ依リ設立セラレタル當該國際司法裁判所又ハ當事國ノ合意ヲ以テ定メ若ハ當事國間ニ現存スル條約ノ規定ニ定ムル裁判所タルヘシ

(四) 聯盟國ハ一切ノ判決ヲ誠實ニ履行スヘク且判決ニ

ニ關スル陳述書ヲ一切ノ關係事實及書類ト共ニ事務總長ニ提出スヘク聯盟理事會ハ直ニ其ノ公表ヲ命スルコトヲ得

(三) 聯盟理事會ハ紛争ノ解決ニカムヘク其ノ努力功ヲ奏シタルトキハ其ノ適當ト認ムル所ニ依リ當該紛争ニ關スル事實及説明並其ノ解決條件ヲ記載セル調書ヲ公表スヘシ

(四) 紛争解決ニ至ラサルトキハ聯盟理事會ハ全會一致又ハ過半数ノ表決ニ基キ當該紛争ノ事實ヲ述ヘ公正且適當ト認ムル勸告ヲ載セタル報告書ヲ作成シ之ヲ公表スヘシ

(五) 聯盟理事會ニ代表セララル聯盟國ハ何レモ當該紛争ノ事實及之ニ關スル自國ノ決定ニ付陳述書ヲ公表スルコトヲ得

(六) 聯盟理事會ノ報告書カ紛争當事國ノ代表者ヲ除キ他ノ聯盟理事會員全部ノ同意ヲ得タルモノナルトキハ聯盟國ハ該報告書ノ勸告ニ應スル紛争當事國ニ對シ戰爭ニ

服スル聯盟國ニ對シテハ戰爭ニ訴ヘサルコトヲ約ス判決ヲ履行セサルモノアルトキハ聯盟理事會ハ其ノ履行ヲ期スル爲必要ナル處置ヲ提議スヘシ

第十四條

聯盟理事會ハ當該國際司法裁判所設置案ヲ作成シ之ヲ聯盟國ノ採擇ニ付スヘシ該裁判所ハ國際的性質ヲ有スル一切ノ紛争ニシテ其ノ當事國ノ付託ニ係ルモノヲ裁判スルノ權限ヲ有ス尙該裁判所ハ聯盟理事會又ハ聯盟總會ノ諮問スル一切ノ紛争又ハ問題ニ關シ意見ヲ提出スルコトヲ得

第十五條

(一) 聯盟國間ニ國交斷絶ニ至ルノ虞アル紛争發生シ第十三條ニ依ル仲裁裁判又ハ司法的解決ニ付セラレサルトキハ聯盟國ハ當該事件ヲ聯盟理事會ニ付託スヘキコトヲ約ス何レノ紛争當事國モ紛争ノ存在ヲ事務總長ニ通告シ以テ前記ノ付託ヲ爲スコトヲ得事務總長ハ之カ充分ナル取調及審理ニ必要ナル一切ノ準備ヲ爲スモノトス

(二) 此ノ目的ノ爲紛争當事國ハ成ルヘク速ニ當該事件

訴へサルヘキコトヲ約ス

(七) 聯盟理事會ニ於テ紛争當事國ノ代表者ヲ除キ他ノ聯盟理事會員全部ノ同意アル報告書ヲ得ルニ至ラサルトキハ聯盟國ハ正義公道ヲ維持スル爲必要ト認ムル處置ヲ執ルノ權利ヲ留保ス

(八) 紛争當事國ノ一國ニ於テ紛争カ國際法上專ラ該當事國ノ管轄ニ屬スル事項ニ付生シタルモノナルコトヲ主張シ聯盟理事會之ヲ是認シタルトキハ聯盟理事會ハ其ノ旨ヲ報告シ且之カ解決ニ關シ何等ノ勸告ヲモ爲ササルモノトス

(九) 聯盟理事會ハ本條ニ依ル一切ノ場合ニ於テ紛争ヲ聯盟總會ニ移スコトヲ得紛争當事國ノ一方ノ請求アリタルトキハ亦之ヲ聯盟總會ニ移スヘシ但シ右請求ハ紛争ヲ聯盟理事會ニ付託シタル後十四日以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

(十) 聯盟理事會ノ行動及權限ニ關スル本條及第十二條ノ規定ハ聯盟總會ニ移シタル事件ニ關シ總テ之ヲ聯盟總會ニ

會ノ行動及權能ニ適用ス但シ紛争當事國ノ代表者ヲ除キ

聯盟理事會ニ代表セラルル聯盟各國代表者及爾餘過半數聯盟國代表者ノ同意ヲ得タル聯盟總會ノ報告書ハ紛争當事國ノ代表者ヲ除キ他ノ聯盟理事會員全部ノ同意ヲ得タル聯盟理事會ノ報告書ト同一ノ效力ヲ有スヘキモノトス

第十六條 (一) 第十二條、第十三條又ハ第十五條ニ依ル約束ヲ無視シテ戰爭ニ訴ヘタル聯盟國ハ當然他ノ總テノ聯盟國ニ對シ戰爭行爲ヲ爲シタルモノト看做ス他ノ總テノ聯盟國ハ之ニ對シ直ニ一切ノ通商上又ハ金融上ノ關係ヲ斷絶シ自國民ト違約國國民トノ一切ノ交通ヲ禁止シ且聯盟國タルト否トヲ問ハス他ノ總テノ國ノ國民ト違約國國民トノ間ノ一切ノ金融上、通商上又ハ個人的交通ヲ防遏スヘキコトヲ約ス

(二) 聯盟理事會ハ前項ノ場合ニ於テ聯盟ノ約束擁護ノ爲使用スヘキ兵力ニ對スル聯盟各國ノ陸海又ハ空軍ノ分擔程度ヲ關係各國政府ニ提案スルノ義務アルモノトス

(三) 聯盟國ハ本條ニ係リ金融上及經濟上ノ措置ヲ執リ

タル場合ニ於テ之ニ基ク損失及不便ヲ最少限度ニ止ムル

爲相互ニ支持スヘキコト、聯盟ノ一國ニ對スル違約國ノ特殊ノ措置ヲ抗拒スル爲相互ニ支持スヘキコト並聯盟ノ約束擁護ノ爲協力スル聯盟國軍隊ノ版圖内通過ニ付必要ナル處置ヲ執ルヘキコトヲ約ス

(四) 聯盟ノ約束ニ違反シタル聯盟國ニ付テハ聯盟理事會ニ代表セラルル他ノ一切ノ聯盟國代表者ノ聯盟理事會ニ於ケル一致ノ表決ヲ以テ聯盟ヨリ之ヲ除名スル旨ヲ聲明スルコトヲ得

第十七條 (一) 聯盟國ト非聯盟國トノ間又ハ非聯盟國相

互ノ間ニ紛争ヲ生シタルトキハ此ノ種紛争解決ノ爲聯盟國ノ負フヘキ義務ヲ該非聯盟國カ聯盟理事會ノ正當ト認ムル條件ヲ以テ受諾スルコトヲ之ニ勸誘スヘシ勸誘ノ受諾アリタル場合ニ於テハ第十二條乃至第十六條ノ規定ハ聯盟理事會ニ於テ必要ト認ムル修正ヲ加ヘテ之ヲ適用ス

(二) 前項ノ勸誘ヲ爲シタルトキハ聯盟理事會ハ直ニ紛争事情ノ審査ヲ開始シ當該事情ノ下ニ於テ最善且最有效

ト認ムル行動ヲ勸告スヘシ

(三) 勸誘ヲ受ケタル國カ此ノ種紛争解決ノ爲聯盟國ノ負フヘキ義務ノ受諾ヲ拒ミ聯盟國ニ對シ戰爭ニ訴フル場合ニ於テハ第十六條ノ規定ハ該行動ヲ執ル國ニ之ヲ適用ス

(四) 勸誘ヲ受ケタル紛争當事國ノ雙方カ此ノ種紛争解決ノ爲聯盟國ノ負フヘキ義務ノ受諾ヲ拒ム場合ニ於テハ聯盟理事會ハ敵對行爲ヲ防止シ紛争ヲ解決スヘキ措置及勸告ヲ爲スコトヲ得

第十八條 聯盟國カ將來締結スヘキ一切ノ條約又ハ國際約定ハ直ニ之ヲ聯盟事務局ニ登録シ聯盟事務局ハ成ルヘク連ニ之ヲ公表スヘシ右條約又ハ國際約定ハ前記ノ登録ヲ了スル迄其ノ拘束力ヲ生スルコトナカルヘシ

第十九條 聯盟總會ハ適用不能ト爲リタル條約ノ再審議又ハ繼續ノ結果世界ノ平和ヲ危殆ナラシムヘキ國際狀態ノ審議ヲ隨時聯盟國ニ懸憑スルコトヲ得

第二十條 (一) 聯盟國ハ本規約ノ條項ト兩立セサル聯盟

國相互間ノ義務又ハ了解力各自國ノ關スル限り總テ本規約ニ依リ廢棄セラルヘキモノナルコトヲ承認シ且今後本規約ノ條項ト兩立セサル一切ノ約定ヲ締結セサルヘキコトヲ誓約ス

(二) 聯盟國ト爲ル以前本規約ノ條項ト兩立セサル義務ヲ負擔シタル聯盟國ハ直ニ該義務ノ解除ヲ得ルノ處置ヲ執ルコトヲ要ス

第二十一條 本規約ハ仲裁裁判條約ノ如キ國際約定又ハ「モンロー」主義ノ如キ一定ノ地域ニ關スル了解ニシテ平和ノ確保ヲ目的トスルモノノ效力ニ何等ノ影響ナキモノトス

第二十二條 (一) 今次ノ戰爭ノ結果從前支配シタル國ノ統治ヲ離レタル殖民地及領土ニシテ近代世界ノ激甚ナル生存競争狀態ノ下ニ未タ自立シ得サル人民ノ居住スルモノニ對シテハ該人民ノ福祉及發達ヲ計ルハ文明ノ神聖ナル使命ナルコト及其ノ使命遂行ノ保障ハ本規約中ニ之ヲ包容スルコトノ主義ヲ適用ス

(二) 此ノ主義ヲ實現スル最善ノ方法ハ該人民ニ對スル後見ノ任務ヲ先進國ニシテ資源、經驗又ハ地理的位置ニ因リ最モ此ノ責任ヲ引受クルニ適シ且之ヲ受諾スルモノニ委任シ之ヲシテ聯盟ニ代リ受任國トシテ右後見ノ任務ヲ行ハシムルニ在リ

(三) 委任ノ性質ニ付テハ人民發達ノ程度、領土ノ地理的地位經濟狀態其ノ他類似ノ事情ニ從ヒ差異ヲ設クルコトヲ要ス

(四) 從前土耳其帝國ニ屬シタル或部族ハ獨立國トシテ假承認ヲ受ケ得ル發達ノ程度ニ達シタリ尤モ其ノ自立シ得ル時期ニ至ル迄施政上受任國ノ助言及援助ヲ受クヘキモノトス前記受任國ノ選定ニ付テハ主トシテ當該部族ノ希望ヲ考慮スルコトヲ要ス

(五) 他ノ人民殊ニ中央アフリカノ人民ハ受任國ニ於テ其ノ地域ノ施政ノ責ニ任スヘキ程度ニ在リ尤モ受任國ハ公ノ秩序及善良ノ風俗ニ反セサル限り良心及信教ノ自由ヲ許與シ、奴隸ノ賣賣又ハ武器若ハ火酒類ノ取引ノ如キ

弊習ヲ禁止シ竝築城又ハ陸海軍根據地ノ建設及警察又ハ地域防衛以外ノ爲ニスル土民ノ軍事教育ヲ禁遏スヘキコトヲ保障シ且他ノ聯盟國ノ通商貿易ニ對シ均等ノ機會ヲ確保スルコトヲ要ス

(六) 西南アフリカ及或南太平洋諸島ノ如キ地域ハ人口ノ稀薄、面積ノ狭小、文明ノ中心ヨリ遠キコト又ハ受任國領土ト隣接セルコト其ノ他ノ事情ニ因リ受任國領土ノ構成部分トシテ其ノ國法ノ下ニ施政ヲ行フヲ以テ最善トス但シ受任國ハ土著人民ノ利益ノ爲前記ノ保障ヲ與フルコトヲ要ス

(七) 各委任ノ場合ニ於テ受任國ハ其ノ委任地域ニ關スル年報ヲ聯盟理事會ニ提出スヘシ

(八) 受任國ノ行フ權限、監理又ハ施政ノ程度ニ關シ豫メ聯盟國間ニ合意ナキトキハ聯盟理事會ハ各場合ニ付之ヲ明定スヘシ

(九) 受任國ノ年報ヲ受理審査セシメ且委任ノ實行ニ關スル一切ノ事項ニ付聯盟理事會ニ意見ヲ具申セシムル爲

常設委員會ヲ設置スヘシ

第二十三條 聯盟國ハ現行又ハ將來協定セラルヘキ國際條約ノ規定ニ遵由シ

(イ) 自國內ニ於テ及其ノ通商產業關係ノ及フ一切ノ國ニ於テ男女及兒童ノ爲ニ公平ニシテ人道的ナル勞働條件ヲ確保スルニ力メ且之カ爲必要ナル國際機關ヲ設立維持スヘシ

(ロ) 自國ノ監理ニ屬スル地域内ノ土著住民ニ對シ公正ナル待遇ヲ確保スルコトヲ約ス

(ハ) 婦人及兒童ノ賣買竝阿片其ノ他ノ有害藥物ノ取引ニ關スル取極ノ實行ニ付一般監視ヲ聯盟ニ委託スヘシ

(ニ) 武器及彈藥ノ取引ヲ共通ノ利益上取締ルノ必要アル諸國トノ間ニ於ケル該取引ノ一般監視ヲ聯盟ニ委託スヘシ

(ホ) 交通及通過ノ自由並一切ノ聯盟國ノ通商ニ對スル衡平ナル待遇ヲ確保スル爲方法ヲ講スヘシ右ニ關シテハ千九百十四年乃至千九百十八年ノ戰役中荒廢ニ歸シタル

地方ノ特殊ノ事情ヲ考慮スヘシ

(ハ) 疾病ノ豫防及撲滅ノ爲國際利害關係事項ニ付措置ヲ執ルニカムヘシ

第二十四條 (一) 一般條約ニ依ル既設ノ國際事務局ハ當該條約當事國ノ承諾アルニ於テハ總テ之ヲ聯盟ノ指揮下ニ屬セシムヘシ國際利害關係事項處理ノ爲今後設ケラルヘキ國際事務局及委員會ハ總テ之ヲ聯盟ノ指揮下ニ屬セシムヘキモノトス

(二) 一般條約ニ依リ規定セラレタル國際利害關係事項ニシテ國際事務局又ハ委員會ノ管理ニ屬セサルモノニ關シテハ聯盟事務局ハ當事國ノ請求ニ基キ聯盟理事會ノ同意ヲ得テ其ノ一切ノ關係情報ヲ蒐集頒布シ其ノ他必要又ハ望マシキ一切ノ援助ヲ與フヘシ

(三) 聯盟理事會ハ聯盟ノ指揮下ニ屬セシメタル事務局又ハ委員會ノ經費ヲ聯盟事務局ノ經費中ニ編入スルコトヲ得

第二十五條 聯盟國ハ全世界ニ互リ健康ノ増進、疾病ノ豫

防及苦痛ノ輕減ヲ目的トスル公認ノ國民赤十字篤志機關ノ設立及協力ヲ獎勵促進スルコトヲ約ス

第二十六條 (一) 本規約ノ改正ハ聯盟理事會ヲ構成スル代表者ヲ出ス聯盟各國及聯盟總會ヲ構成スル代表者ヲ出ス過半數聯盟國之ヲ批准シタルトキ其ノ效力ヲ生スルモノトス

(二) 右改正ハ之ニ不同意ヲ表シタル聯盟國ヲ拘束スルコトナシ但シ此ノ場合ニ於テ當該國ハ聯盟國タラサルニ至ルヘシ

(參考二) 不戰條約

戰爭拋棄ニ關スル條約

千九百二十八年	(昭和三年)	署名
八月二十七日	「ハリ」ニテ	署名
千九百二十九年	(昭和四年)	署名
六月二十七日	批	署名
同	年	署名
七月二十四日	批	署名
同	年	署名
同月二十五日	公	署名

獨逸國大統領 (以下締約國元首名略) ハ

人類ノ福祉ヲ増進スベキ其ノ嚴肅ナル責務ヲ深ク感銘シ其ノ人民間ニ現存スル平和及友好ノ關係ヲ永久ナラシメンガ爲國家ノ政策ノ手段トシテノ戰爭ヲ卒直ニ拋棄スベキ時機ノ到來セルコトヲ確信シ

其ノ相互關係ニ於ケル一切ノ變更ハ平和的手段ニ依リテノミ之ヲ求ムベク又平和的ニシテ秩序アル手續ノ結果タルベキコト及今後戰爭ニ訴ヘテ國家ノ利益ヲ増進セントスル署名國ハ本條約ノ供與スル利益ヲ拒否セラルベキモノナルコ

第十四 日本ノ聯盟脫退回願 (參考二) 不戰條約

トヲ確信シ

其ノ範圍ニ促サレ世界ノ他ノ一切ノ國ガ此ノ人道的努力ニ參加シ且本條約ノ實施後速ニ之ニ加入スルコトニ依リテ其ノ人民ヲシテ本條約ノ規定スル恩澤ニ浴セシメ以テ國家ノ政策ノ手段トシテノ戰爭ノ共同拋棄ニ世界ノ文明諸國ヲ結合センコトヲ希望シ

茲ニ條約ヲ締結スルコトニ決シ之ガ爲左ノ如ク其ノ全權委員ヲ任命セリ

(全權委員名略)

因テ各全權委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之ガ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條 締約國ハ國際紛爭解決ノ爲戰爭ニ訴フルコトヲ非トシ且其ノ相互關係ニ於テ國家ノ政策ノ手段トシテノ戰爭ヲ拋棄スルコトヲ其ノ各自ノ人民ノ名ニ於テ嚴肅ニ宣言ス

第二條 締約國ハ相互間ニ起ルコトアルベキ一切ノ紛爭又ハ紛議ハ其ノ性質又ハ起因ノ如何ヲ問ハズ平和的手段ニ

依ルノ外之方處理又ハ解決ヲ求メザルコトヲ約ス

第三條 本條約ハ前文ニ掲ゲラルル締約國ニ依リ其ノ各自ノ憲法上ノ要件ニ從ヒ批准セラルベク且各國ノ批准書ガ總テ「ワシントン」ニ於テ寄託セラレタル後直ニ締約國間ニ實施セラルベシ

本條約ハ前項ニ定ムル所ニ依リ實施セラレタルトキハ世界ノ他ノ一切ノ國ノ加入ノ爲必要ナル間開キ置カルベシ一國ノ加入ヲ證スル各文書ハ「ワシントン」ニ於テ寄託セラルベク本條約ハ右寄託ノ時ヨリ直ニ該加入國ト本條約ノ他ノ當事國トノ間ニ實施セラルベシ

亞米利加合衆國政府ハ前文ニ掲ゲラルル各國政府及爾後本條約ニ加入スル各國政府ニ對シ本條約及一切ノ批准書又ハ加入書ノ認證謄本ヲ交付スルノ義務ヲ有ス亞米利加合衆國政府ハ各批准書又ハ加入書方同國政府ニ寄託アリタルトキハ直ニ右諸國政府ニ電報ヲ以テ通告スルノ義務ヲ有ス

右證據トシテ各全權委員ハ佛蘭西語及英吉利語ヲ以テ作成

セラレ兩本文共ニ同等ノ效力ヲ有スル本條約ニ署名調印セリ

千九百二十八年八月二十七日巴里ニ於テ作成ス

(全權委員署名略)

帝國ノ宣言(昭和四年六月二十七日)

帝國政府ハ千九百二十八年八月二十七日巴里ニ於テ署名セラレタル戰爭拋棄ニ關スル條約第一條中ノ「其ノ各自ノ人民ノ名ニ於テ」ナル字句ハ帝國憲法ノ條章ヨリ觀テ日本國ニ限り適用ナキモノト了解スルコトヲ宣言ス

(參考三) **日本ノ委任統治條項**

太平洋中赤道以北ニ位スル獨

逸國屬地ニ對スル日本ノ委任

統治條項

千九百二十年十二月十七日聯盟理事會ニテ採擇

國際聯盟理事會ハ

千九百十九年六月二十八日「ヴェルサイユ」ニ於テ署名シタル獨逸國トノ平和條約第百十九條ニ依リ獨逸國ハ太平洋中赤道以北ニ位スル諸群島ヲ包含スル其ノ海外屬地ニ關スル一切ノ權利ヲ主タル同盟及聯合國ノ爲ニ拋棄シタルニ因リ

主タル同盟及聯合國ハ同平和條約第一編(國際聯盟規約)

第二十二條ニ準據シ前記諸島ノ施政ヲ行フノ委任ヲ日本國皇帝陛下ニ付與スルコトニ一致シ且右委任統治條項ヲ左ノ通定ムヘキコトヲ提議シタルニ因リ

第十四 日本ノ聯盟脫退回顧 (參考三) 日本委任統治條項

日本國皇帝陛下ハ前記諸島ニ關スル委任ヲ受諾スルニ決シ且左記ノ規定ニ準據シ國際聯盟ニ代リ該委任ヲ實行スルコトヲ約シタルニ因リ

前記第二十二條第八項ハ受任國ノ行フ權限、監理又ハ施政ノ程度ニ關シ豫メ聯盟國間ニ合意ナキトキハ聯盟理事會ハ之ヲ明定スヘキコトヲ規定スルニ因リ

前記委任ヲ確認シ其ノ條項ヲ左ノ如ク定ム

第一條 日本國皇帝陛下(以下受任國ト稱ス)ニ委任ヲ付與シタル諸島ハ太平洋中赤道以北ニ位スル舊獨逸領諸島ノ全部ヲ含ム

第二條 受任國ハ本委任統治條項ニ依ル地域ニ對シ日本帝國ノ構成部分トシテ施政及立法ノ全權ヲ有スヘク且情況ニ應シ必要ナル地方的變更ヲ加ヘテ本地域ニ日本帝國ノ法規ヲ適用スルコトヲ得受任國ハ本委任統治條項ニ依ル地域ノ住民ノ物質的及精神的幸福並社會的進歩ヲ極力増進スヘシ

第三條 受任國ハ奴隸買賣ヲ禁止スルコト並須要ナル公共

的工事及役務ノ爲ニスル場合ヲ除クノ外強制労働ヲ許容セサルコトヲ督視スヘシ右例外ノ場合ニ於テモ相當ノ報償ヲ支拂フコトヲ要ス

受任國ハ又千九百十九年九月十日署名ノ武器取引ノ取締ニ關スル條約又ハ之ヲ修正スル條約ニ規定スル所ト同様ナル原則ニ準據シ武器彈藥ノ取引ヲ取締ルコトヲ督視スヘシ

土着民ニ火酒及酒精飲料ヲ供給スルコトヲ禁止スヘシ
第四條 土着民ノ軍事教育ハ地域内警察及本地域ノ地方的防衛ノ爲ニスル場合ヲ除クノ外之ヲ禁止スヘシ又本地域内ニ陸海軍根據地又ハ築城ヲ建設スルコトヲ得ス

第五條 公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ノ維持ニ關スル地方的法規ニ反セサル限り受任國ハ本地域内ニ於テ良心ノ自由並各種禮拜ノ自由執行ヲ確保シ又聯盟國ノ國民タル一切ノ宣教師カ其ノ職務ヲ行フ爲本地域内ニ到リ、旅行シ又ハ居住スルコトヲ許スヘシ

第六條 受任國ハ國際聯盟理事會ヲ満足セシムヘキ年報ヲ

同理事會ニ提出スヘシ該年報中ニハ本地域ニ關スル詳細ナル情報ヲ記載シ且第二條乃至第五條ニ依リ負擔シタル義務ヲ實行スル爲ニ執リタル諸般ノ措置ヲ表示スヘシ

第七條 本委任統治條項ノ規定ヲ變更スルニハ國際聯盟理事會ノ同意ヲ要ス
受任國ハ本委任統治條項ノ規定ノ解釋又ハ適用ニ關シ受任國ト他ノ聯盟國トノ間ニ紛争ヲ生シタル場合ニ於テ其ノ紛争力交渉ニ依リ解決スルコト能ハサルトキハ之ヲ國際聯盟規約第十四條ニ規定スル常設國際司法裁判所ニ付託スヘキコトニ同意ス

本宣言ハ國際聯盟ノ記録ニ之ヲ寄託スヘク國際聯盟事務總長ハ本書ノ認證謄本ヲ獨逸國トノ平和條約ノ署名國ニ送付スヘシ
千九百二十年十二月十七日「ジエネヴァ」ニ於テ作成ス

第十五 日葡間航空協定

「パラオ」「デイリー」間航空

業務設定ニ關スル日本政府

「ポルトガル」國政府間協定

朕極密顧問ノ諮詢ヲ經テ裁可シ昭和十六年十月十三日「リスボン」ニ於テ帝國特命全權公使ガ「ポルトガル」國代表者ト共ニ署名調印シタル「パラオ」「デイリー」間航空業務設定ニ關スル日本政府「ポルトガル」國政府間協定ヲ茲ニ公布セシム

御名 御璽

昭和十六年十月二十四日

(副署名略)

「パラオ」「デイリー」間航空業務設定ニ關スル日本政府「ポルトガル」國政府間協定

大日本帝國政府及「ポルトガル」國政府ハ日本國「チモール」島間ニ航空連絡ヲ設定センコトヲ希望シ左ノ諸規定ヲ協定セリ

第一條 「ポルトガル」國政府ハ日本國政府ノ指定スル日本國ノ航空輸送會社ニ對シ「パラオ」又ハ日本國政府ノ指定スル其ノ附近ノ他ノ地點ト「デイリー」トノ間ヲ往復スル定期商業航空業務ノ經營ヲ許可ス

第二條 日本國政府モ亦「ポルトガル」國政府ノ指定スル「ポルトガル」國ノ航空輸送會社ニ對シ「デイリー」ト「パラオ」又ハ日本國政府ノ指定スル其ノ附近ノ他ノ地點トノ間ヲ往復スル定期商業航空業務ノ經營ヲ許可ス

第三條 前二條ニ規定スル航空輸送會社ハ郵便物、旅客及貨物ヲ輸送スルノ義務ヲ有スベク兩國政府ハ相手國政府ノ指定スル會社ニ依ル右郵便物、旅客貨物ノ輸送ニ對シ如何ナル不當ナル制限ヲモ加ヘザルコトヲ相互ニ約ス本條ノ規定ハ兩國政府ノ一方ガ國家の理由ニ基キ其ノ領域内ニ於テ郵便物ノ輸送並ニ本協定第一條及第二條ニ規定スル航空業務ノ經營ニ從事スル會社ノ一切ノ使用人又ハ右會社ノ航空機ノ乘員若ハ旅客ノ上陸又ハ滞在ヲ禁止スルコトヲ妨グズ

第四條 第一條ニ規定スル航空業務ノ經營ノ爲日本國政府ノ指定スル航空輸送會社ハ不可抗力ニ因リ不可能ナラザル限り少クトモ二週間ニ一往復ノ飛行ヲ實施スルヲ要ス第二條ニ規定スル「ポルトガル」國政府ノ指定スル「ポルトガル」國ノ會社ハ同様ノ義務ヲ有スベシ

第五條 「ポルトガル」國政府ハ日本國政府ノ指定スル日本國ノ航空輸送會社ニ對シ「チモール」地域上空ノ航空路ニ於ケル飛行ノ實施ノ爲必要ト認メラルル地上設備ノ

利用及技術的便宜ノ供與ヲ保障スベク之ニ對シ日本國政府ハ「ポルトガル」國政府ノ指定スル「ポルトガル」國ノ航空輸送會社ニ對シ日本國領域上空ノ航空路ニ於ケル飛行ノ實施ノ爲必要ト認メラルル地上設備ノ利用及技術的便宜ノ供與ヲ保障スベシ

第六條 本協定ノ實施ニ必要ナル技術的細目ハ兩國ノ權限アル官憲間ニ署名セラルル文書ニ於テ定メラルベシ

第七條 日本國政府ハ一會社ニ對シ爲シタル指定ヲ取消シ他ノ日本國ノ航空輸送會社ヲ指定スルノ權利ヲ留保ス「ポルトガル」國政府ハ「ポルトガル」國ノ一航空輸送會社ニ對シ爲シタル指定ニ關シ同様ノ權利ヲ留保ス此ノ場合ニハ許可ハ第一ノ會社ニ關シテハ直ニ無効ト爲リ許可條項ハ後ニ指定セラレタル會社ニ適用セラルベク第一ノ會社ハ取消ノ通告ヲ受ケタル政府ニ對シ之ガ爲如何ナル要求ヲモ爲スコトヲ得ズ

第八條 本協定ニ規定スル日本國ノ航空業務ガ地上設備ノ利用及技術的便宜ノ供與ガ可能ナリト認メラレタル日ヨ

リ最大限六月ノ期間内ニ開始セラレザルトキハ本協定ハ失效スベシ本協定ハ不可抗力ノ場合ヲ除キ六月ヲ超エ右業務ガ中斷セラレタル場合ニモ亦失效スベシ

第九條 前記航空業務ノ經營ハ千九百十九年十月十三日ノ航空ニ關スル條約ノ規定並ニ本協定又ハ右千九百十九年ノ條約ニ牴觸セザル限り被飛行國領域内ニ於テ實施セラ

ルル法令及規則ニ依リ規律セラルベシ「ポルトガル」國及日本國ノ會社ノ航空機ハ夫々日本國及「ポルトガル」國ノ領域上ヲ被飛行國ノ政府ノ指定スル航空路ニ從ヒ飛行スベシ

右航空路ヨリノ離脱ハ緊急ノ場合又ハ被飛行國ノ政府ノ同意アル場合ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

第十條 本協定ニ規定セラルル許可ハ排他的性質ヲ有セザルモノトス兩國政府ハ夫々ノ領域内ニ於テ且其ノ適當ト認ムル條件ニ從ヒ他ノ航空業務ノ設定ヲ許可スル權利ヲ完全ニ留保ス

第十一條 第一條及第二條ニ規定スル業務ヲ夫々「チモ

ル」及日本國外ニ延長セントスル場合ニハ兩國政府ハ右延長ノ行ハルベキ條件ヲ合意ヲ以テ決定スベシ

第十二條 本協定ハ署名ノ日ノ後三十日ニシテ實施セラレ五年間有效タルベク爾後ハ自動的ニ一年ツツ延長セラルベシ但シ兩國政府ノ一方ハ最初ノ有効期間又ハ延長各年ノ滿了ノ少クトモ六月前ニ他方ノ政府ニ對シ豫告ヲ爲シ本協定ヲ廢棄スルコトヲ得

右證據トシテ下名ハ之ガ爲各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本協定ニ署名調印セリ

昭和十六年十月十三日即チ千九百四十一年十月十三日「リ
スポン」ニ於テ「フランス」語ヲ以テ本書ニ通作成ス

千葉 肇 一 (印)
オ、サラザール (印)

(參照) 國際航空條約

千九百十九年	(大正八年)	署名
十月十三日	(大正八年)	署名
千九百二十一年	(大正十年)	署名
六月二十八日	(大正十年)	署名
千九百二十二年	(大正十一年)	署名
六月二十一日	(大正十一年)	署名
同月二十日	(大正十一年)	署名

亞米利加合衆國(以下締約國名略)

右諸國ハ航空ノ發達ヲ認メ且共通法規ノ制定カ全般ノ利益タルコトヲ認メ

爭議防止ノ目的ヲ有スル一定ノ主義及規則ヲ速ニ取極ムルノ必要ナルコトヲ思惟シ

空中交通ニ依ル國際間ノ平和的交際ヲ獎勵セムコトヲ希望シ

之カ爲條約ヲ締結スルコトヲ決シ各左ノ全權委員ヲ任命セリ但シ本條約ノ署名ノ爲ニ右全權委員以外ノ者ヲシテ代ラシムルノ權ヲ留保ス

(全權委員名略)
右各員ハ左ノ如ク協定セリ

第一章 總則

第一條 締約國ハ各國カ其ノ版圖上ノ空間ニ於テ完全且排他的ノ主權ヲ有スルコトヲ承認ス
本條約ノ關スル限リ一國ノ版圖ハ本國及殖民地ノ國土並之ニ接スル領水ヲ包含スルモノトス

第二條 各締約國ハ他ノ締約國ノ航空機カ本條約ニ定ムル條件ヲ遵守スル限リ平時ニ於テ之ニ自國版圖上ニ於ケル無害航空ノ自由ヲ許與スルコトヲ約ス
締約國カ他ノ締約國ノ航空機ノ自國版圖上ニ於ケル航空許可ニ關シ制定スル法規ハ國籍ノ如何ヲ問ハス適用セラ

ルヘシ
第三條 各締約國ハ他ノ締約國ノ航空機カ自國版圖内ノ一定ノ地域上ニ於テ飛行スルコトヲ軍事上ノ理由ニ因リ又ハ公安ノ爲自國法令ノ定ムル罰則ノ下ニ禁止スルコトヲ得但シ右ニ關シ自國ノ私ノ航空機ト他ノ締約國ノ私ノ航

空機トノ間ニ差別ヲ設クルコトヲ得ス

各締約國ハ自國ノ航空機カ右地域上ニ於テ飛行スルコトヲ例外トシテ且公安ノ爲許可スルコトヲ得

禁止地域ノ位置及範圍ハ豫メ公示セラルヘク且前項ニ依リ與ヘラレタル例外ノ許可ト共ニ他ノ一切ノ締約國及國際航空委員會ニ通告セラルヘシ

各締約國ハ又平時ニ於テ例外ノ場合ニ自國ノ版圖又ハ版圖ノ一部ノ上ニ於テ飛行スルコトヲ臨時且即時ニ制限又ハ禁止スルノ權利ヲ留保ス但シ右ノ制限又ハ禁止ハ他ノ一切ノ國ノ航空機ニ對シ國籍ノ如何ヲ問ハス適用セララルコトヲ條件トス

右決定ハ公示セラレ、他ノ一切ノ締約國ニ通告セラレ及國際航空委員會ニ通知セララルヘシ

第四條 禁止地域上ヲ飛行スル一切ノ航空機ハ其ノ事實ヲ知ルト共ニ第四附屬書十七ニ定ムル遭難信號ヲ爲シ且該禁止地域外ニ於テ被不法飛行國ノ最寄ノ飛行場ニ成ルヘク速ニ著陸スヘシ

第五條 各締約國ハ非締約國ト特別條約ヲ締結スルノ權利ヲ有ス

右特別條約ノ規定ハ本條約ノ締約國ノ權利ヲ害スルコトヲ得サルヘシ

右特別條約ハ其ノ目的ト兩立スル限リ本條約ノ一般原則ト背馳スルコトヲ得サルヘシ

右特別條約ハ國際航空委員會ニ通知セラルヘク同委員會ハ之ヲ他ノ締約國ニ通告スヘシ

第二章 航空機ノ國籍

第六條 航空機ハ第一附屬書第一款(ハ)ノ規定ニ依リ登録セラレタル國ノ國籍ヲ有ス

第七條 前條ニ掲ケラルル航空機ノ登録ハ各締約國ノ法令及特別規定ニ從ヒテ爲サルヘシ

第八條 航空機ハ二國以上ニ於テ有效ニ登録セララルコトヲ得ス

第九條 締約國ハ前月中ニ其ノ登録簿ニ記入セラレタル登録及抹消登録ノ寫ヲ毎月交換シ且第三十四條ニ規定スル

國際航空委員會ニ送付スヘシ

第十條 國際航空ニ從事スル一切ノ航空機ハ第一附屬書ニ依リ其ノ國籍及登録ノ記號並所有者ノ名及住所ヲ掲クヘシ

第三章 堪航證明書及技術證明書

第十一條 國際航空ニ從事スル一切ノ航空機ハ第二附屬書ニ規定スル條件ニ依リ其ノ所屬國カ下付シ又ハ有效ト認ムル堪航證明書ヲ携帶スヘシ

第十二條 一切ノ航空機ノ機長、操縦者、技師及運航ニ從事スル其ノ他ノ乘員ハ第五附屬書ニ規定スル條件ニ依リ航空機所屬國カ下付シ又ハ有效ト認ムル技術證明書及免狀ヲ携帶スヘシ

第十三條 第二附屬書及第五附屬書ニ定ムル規則並國際航空委員會ノ將來定ムル規則ニ依リ航空機所屬國カ下付シ又ハ有效ト認ムル堪航證明書、技術證明書及免狀ハ他ノ締約國ニ於テモ之ヲ有效ト認ムヘシ
各締約國ハ其ノ版圖内及版圖上ニ於ケル飛行ニ付テハ自

國民ニ對シ他ノ締約國ノ付與シタル技術證明書及免狀ノ效力ヲ認メサルノ權利ヲ有ス

第十四條 無線電信機ハ航空機所屬國カ下付シタル特別免狀ヲ有スルニ非サレハ航空機ニ之ヲ搭載スルコトヲ得ス
無線電信機ハ之カ使用ニ關スル特別免狀ヲ有スル乘員ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス十名以上ノ人員ヲ搭載シ得ル
公衆運搬用航空機ハ國際航空委員會ニ於テ無線電信機使用
方法ヲ決定スルニ至ラハ送受信用無線電信機ヲ裝備スヘシ

右委員會ハ其ノ定ムルコトアルヘキ條件及方法ニ依リ無線電信機ヲ搭載スルノ義務ヲ將來他ノ一切ノ種類ノ航空機ニ及ホスコトヲ得

第四章 外國ノ版圖上ニ於ケル航空ノ許可

第十五條 締約國ノ一切ノ航空機ハ著陸スルコトナク他ノ締約國ノ上空ヲ過クルノ權利ヲ有ス此ノ場合ニ於テハ右航空機ハ被飛行國ノ定ムル路ニ由ルヘシ尤モ一般保安上ノ理由ニ因リ前記航空機ハ第四附屬書ニ定ムル信號ニ依

リ命令ヲ受ケタルトキハ著陸スヘキモノトス
操縦者ナクシテ飛行シ得ル締約國ノ航空機ハ特別ノ許可
ナクシテ他ノ締約國ノ版圖上ニ於テ操縦者ナクシテ飛行
スルコトヲ得ス

一國ヨリ他國ニ至ル一切ノ航空機ハ到達國ノ法規ニ定アルトキハ右到達國ノ定ムル諸飛行場中ノ一ニ著陸スヘシ
右諸飛行場ハ締約國ヨリ國際航空委員會ニ之ヲ通告スヘク同委員會ハ他ノ一切ノ締約國ニ右通告ヲ移牒スヘシ
各締約國ハ自國版圖上ニ於ケル國際航空路ノ建設並定期
國際航空線路ノ開設及經營(寄航ノ有無ヲ問ハス)ニ付
テハ豫メ其ノ許可ヲ要スルモノト爲スコトヲ得ヘシ

第十六條 各締約國ハ其ノ版圖内ノ二地點間ニ於テ有償ニ旅客及貨物ノ運送ヲ爲スコトニ付自國航空機ノ爲ニ留保
及制限ヲ設クルノ權利ヲ有スヘシ

右留保及制限ハ之ヲ直ニ公示シ且國際航空委員會ニ通知
スヘク同委員會ハ他ノ締約國ニ之ヲ通告スヘシ

第十七條 前條ニ依リ留保及制限ヲ設ケタル締約國ノ航空

機ハ他ノ締約國ニ於テ同様ノ留保及制限ニ服スルコトアルヘシ右ノ他ノ締約國ニ於テ他ノ外國航空機ニ對シ該留保及制限ヲ設ケサル場合ト雖亦同シ

第十八條 締約國ノ版圖ヲ過クル(其ノ通過ノ爲必要ナルヘキ著陸及滞留ヲ含ム)一切ノ航空機ハ保證金ノ供託ニ依リ特許發明、實用新案、意匠又ハ雜形ニ關スル權利ノ侵害ニ基ク差押ヲ免ルヘク右保證金額ハ之ニ關スル協定
ナキ場合ニハ差押地ノ當該官憲ニ於テ成ルヘク速ニ之ヲ
定ムヘシ

第五章 出發、航行及著陸ノ際遵守スヘキ規則

第十九條 國際航空ニ從事スル一切ノ航空機ハ左ノ書類ヲ携帶スヘシ

- (イ) 第一附屬書ニ依ル登録證明書
- (ロ) 第二附屬書ニ依ル堪航證明書
- (ハ) 第五附屬書ニ依ル機長、操縦者及乘員ノ證明書及免狀

- (ニ) 旅客ヲ運送スルトキハ旅客名簿
- (ホ) 貨物ヲ運送スルトキハ積荷證券及積荷目録
- (ヘ) 第三附屬書ニ依ル日誌

(ト) 無線電信機ヲ裝備スルトキハ第十四條ニ規定スル特別免狀

第二十條 日誌ハ其ノ最終記入ノ後二年間之ヲ保存スヘシ

第二十一條 航空機ノ出發又ハ著陸ニ當リ當該國官憲ハ一切ノ場合ニ於テ該航空機ニ臨檢シ且其ノ携帶スヘキ一切ノ書類ヲ檢閱スルノ權利ヲ有スヘシ

第二十二條 締約國ノ航空機ハ著陸ニ遭難ノ場合ニ於ケル著陸ニ付著陸國ノ航空機ト同様ノ援助ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第二十三條 海上ニ於テ難破セル航空機ノ救助ニ關シテハ反對ノ取極ナキ限り海上法規ノ原則ヲ適用ス

第二十四條 締約國ノ飛行上ニシテ自國航空機ノ使用ノ爲料金ヲ徴シテ公開スルモノハ他ノ一切ノ締約國ノ航空機ニ對シテモ總テ均シク之ヲ公開スヘシ

前項ノ各飛行場ニ於テハ著陸及滞在ニ付自國及外國ノ航空機ニ對シ差別ナク適用セラルル單一ナル料金率ヲ定ムヘシ

第二十五條 各締約國ハ其ノ版圖上ヲ飛行スル一切ノ航空機及所在ノ如何ヲ問ハス自國ノ國籍記號ヲ掲クル一切ノ航空機カ第四附屬書ノ規則ヲ遵守スルコトヲ確保スルノ措置ヲ執ルコトヲ約ス

各締約國ハ前項ノ規則ニ違反シタル者ノ訴追及處罰ヲ確保スルコトヲ約ス

第六章 運送禁制

第二十六條 航空機ニ依ル爆藥、兵器及彈藥ノ運送ハ國際航空ニ於テ之ヲ禁止ス外國航空機ハ同一締約國內ノ二地點間ニ於ケル右物件ノ運送ヲ許サルコトナシ

第二十七條 各締約國ハ航空ニ付寫眞機ノ携帶又ハ使用ヲ禁止シ又ハ取締ルコトヲ得右ニ關スル法規ハ直ニ國際航空委員會ニ之ヲ通告スヘク同委員會ハ他ノ締約國ニ右通告ヲ移牒スヘシ

第二十八條 各締約國ハ公安上ノ措置トシテ前二條ニ掲クル以外ノ物件ノ運送ヲ制限スルコトヲ得右ニ關スル法規ハ直ニ國際航空委員會ニ之ヲ通告スヘク同委員會ハ他ノ締約國ニ右通告ヲ移牒スヘシ

第二十九條 前條ニ掲クル一切ノ制限ハ自國及外國ノ航空機ニ對シ差別ナク之ヲ適用スヘシ

第七章 國ノ航空機

第三十條 左ニ掲クルモノハ之ヲ國ノ航空機ト看做ス

- (イ) 軍用航空機
- (ロ) 郵便、税關、警察ノ如キ國務ニ專用セララルル航空機

他ノ一切ノ航空機ハ之ヲ私ノ航空機ト看做ス

軍用、税關用及警察用ノ航空機ニ非サル國ノ航空機ハ總テ私ノ航空機トシテ取扱ハルヘク且其ノ資格ニ於テ本條約ノ一切ノ規定ニ從フヘシ

第三十一條 航空機ノ指揮ヲ命セラレタル軍務從事者カ指揮スル一切ノ航空機ハ之ヲ軍用航空機ト看做ス

第三十二條 締約國ノ軍用航空機ハ特別ノ許可アルニ非サレハ他ノ締約國ノ版圖上ヲ飛行シ又ハ其ノ版圖ニ著陸スヘカラス右ノ許可アリタル場合ニ於テ特別ノ規定ナキ限り軍用航空機ハ外國軍艦ニ慣例上許與セラルル特權ヲ享有スルコトヲ原則トス

第三十三條 警察用及税關用ノ航空機カ國境ヲ過クルコトヲ許可セラルヘキ場合ハ關係國間ノ特別協定ニ依リ之ヲ定ムヘシ右航空機ハ如何ナル場合ニ於テモ前條ニ規定スル特權ヲ有スルコトナカルヘシ

第三十四條 國際聯盟ノ指揮ノ下ニ常設委員會ヲ置キ之ヲ國際航空委員會ト名ツク

第八章 國際航空委員會

各締約國ハ委員會ニ於テ二名ヲ超ユル代表者ヲ有スルコトヲ得サルヘシ

委員會ニ代表者ヲ出ス國ハ各一ノ表決權ヲ有スヘシ
國際航空委員會ハ其ノ手續ニ關スル規則及常設本部ノ所
在地ヲ定ムヘシ尤モ同委員會ハ其ノ便宜ト認ムル地ニ於
テ集會スルノ自由ヲ有スヘキモノトス
右委員會ハ左ノ任務ヲ有ス

(イ) 本條約ノ規定ノ變更又ハ修正ニ付締約國ノ提議
ヲ受ケ又ハ締約國ニ提議ヲ爲スコト及採擇シタル變更
修正ノ通告ヲ爲スコト

(ロ) 本條並本條約第九條、第十三條、第十四條、第
十五條、第十六條、第二十七條、第二十八條、第三十
六條及第三十七條ニ依ル任務ヲ行フコト

(ハ) 第一乃至第七附屬書ノ諸規定ヲ修正スルコト
(ニ) 國際航空ニ關スル各種ノ情報ヲ蒐集シ締約國ニ
通牒スルコト

(ホ) 航空ニ關スル無線電信學、氣象學及醫學上ノ一
切ノ情報ヲ蒐集シ締約國ニ通牒スルコト
(ヘ) 第六附屬書ノ規定ニ依ル航空地圖ノ出版ヲ確實

國際航空委員會ノ經費ハ同委員會ニ依リ定メラルル割合
ニ從ヒ締約國ニ依リ負擔セラルヘシ
專門委員ノ派遣ニ關スル費用ハ派遣國各自之ヲ負擔スヘ
シ

第九章 末 則

第三十五條 締約國ハ左ニ關スル國際的措置ニ付能フ限り
協力スルコトヲ其ノ各自ノ關スル限リ約諾ス

(イ) 第七附屬書ノ規定ニ依ル氣象ニ關スル統計報
告、常時報告及特別報告ノ蒐集及頒布

(ロ) 第六附屬書ノ規定ニ依ル標準航空地圖ノ出版及
航空地上標識ノ共通方式ノ設定

(ハ) 航空中ニ於ケル無線電信ノ使用、必用ナル無線
電信所ノ設置及國際無線電信規則ノ遵守

第三十六條 國際航空ニ關スル稅關ノ一般規定ハ本條約第
八附屬書ノ特別取極ニ依ル

本條約ノ規定ハ締約國カ稅關、警察、郵便其ノ他ノ航空
ニ關スル共通關係事項ニ付其ノ相互間ニ本條約ノ原則ニ

ナラシムルコト
(ト) 審議ノ爲各國ノ提出スルコトアルヘキ問題ニ付
意見ヲ述フルコト

各附屬書ノ規定ノ變更ハ同變更カ國際航空委員會會議ニ
代表者ヲ出シタル國ノ表決總數ノ四分ノ三ニシテ且一切
ノ締約國カ代表者ヲ出シタル場合ニ表明セラルヘキ表決
可能總數ノ三分ノ二ニ依リ承認セラルルトキ同委員會ニ
依リ爲サルルコトヲ得ヘシ右變更ハ國際航空委員會カ一
切ノ締約國ニ之ヲ通告シタル時ヨリ其ノ效力ヲ生ス

本條約ノ條項ニ關スル變更ハ締約國ヨリ提議シタルモノ
ナルト國際航空委員會ヨリ提議シタルモノナルトヲ問ハ
ス總テ國際航空委員會ニ於テ之ヲ審議スヘシ右變更ハ表
決可能總數ノ少クトモ三分ノ二ノ贊成アルニ非サレハ締
約國ニ其ノ採擇ヲ提議スルコトヲ得サルヘシ

本條約ノ條項ニ關スル右ノ變更(附屬書ノ規定ニ關スル
モノヲ除ク)ハ締約國ニ於テ正式ニ之ヲ採擇スルニ非サ
レハ總テ其ノ效力ヲ生セス

準據シ特別ノ議定書ヲ締結スルコトヲ妨ケサルヘシ右ノ
議定書ハ直ニ國際航空委員會ニ之ヲ通告スヘク同委員會
ハ他ノ締約國ニ右ノ通告ヲ移牒スヘシ

第三十七條 本條約ノ解釋ニ關シ二國以上ノ間ニ意見一致

セサルトキハ係争問題ハ常設國際司法裁判所ニ依リ解決
セラルヘシ但シ關係國ノ一カ右裁判所ニ關スル議定書ヲ
未タ受諾セサルトキハ係争問題ハ其ノ國ノ要求ニ基キ仲
裁裁判ニ依リ解決セラルヘシ

當事國間ニ於テ仲裁委員ノ選定ニ付協議調ハサルトキ
左ノ手續ニ依ル

當事國ハ各一名ノ仲裁委員ヲ指名シ此ノ仲裁委員ハ一
名ノ審判委員ヲ指名スル爲集會スヘシ仲裁委員間ニ協
議調ハサルトキハ當事國ハ各第三國ヲ指名シ右第三國
ハ協定ニ依リ又ハ各一名ヲ提議シテ其ノ中ヨリ抽籤ヲ
以テ選定スル方法ニ依リ審判委員ヲ指定スヘシ

本條約ニ附屬スル專門事項ニ關スル規則ニ付意見一致セ
サルトキハ國際航空委員會ハ表決ノ過半數ニ依リ之ヲ決

定スヘシ

意見ノ相違カ本條約ノ解釋ニ關スルカ又ハ規則ノ解釋ニ關スルカノ問題ニ係ルトキハ之カ終結ノ決定ハ本條第一項ニ規定スル仲裁裁判ニ依ルヘシ

第三十八條 本條約ノ規定ハ戰時ニ於テハ締約國ノ交戰國又ハ中立國トシテノ行動ノ自由ニ影響ヲ及ホスコトナカルヘシ

第三十九條 本條約ノ規定ヲ補足スル第一乃至第八附屬書ハ本條約ト同一ノ效力ヲ有シ且同時ニ實施セラルヘシ但シ第三十四條(ハ)ヲ留保スルモノトス

第四十條 被保護領又ハ國際聯盟ノ名ニ於テ施政ヲ行フ地方ノ版圖及住民ハ本條約ニ於テ保護國又ハ受任國ノ版圖及住民ニ準セラルヘシ

第四十一條 一切ノ國ハ本條約ニ加入スルコトヲ得ヘシ右加入ハ外交上ノ手續ヲ經テ佛蘭西共和國政府ニ、同國政府ハ一切ノ署名國及加入國ニ之ヲ通告スヘシ

第四十二條、(削除)

第四十三條 本條約ハ千九百二十二年一月一日前ニ於テハ之ヲ廢棄スルコトヲ得ス廢棄ノ場合ニ於テハ其ノ通告ヲ佛蘭西共和國政府ニ爲スヘク同國政府ハ他ノ締約國ニ之ヲ移牒スヘシ右ノ廢棄ハ通告後少クトモ一年ヲ經過シタル後ニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス且通告ヲ爲シタル國ニ關シテノミ其ノ效力ヲ生ス

本條約ハ批准ヲ要ス

各締約國ハ其ノ批准書ヲ佛蘭西國政府ニ送付スヘク同國政府ハ其ノ旨他ノ署名國ニ通報スヘシ

批准書ハ佛蘭西國政府ノ記録ニ之ヲ寄託保存スヘシ

本條約ハ批准書寄託ノ日ヨリ四十日ヲ經テ各署名國ト既ニ批准濟ノ他ノ締約國トノ間ニ之ヲ實施ス

本條約實施セラレタルトキハ佛蘭西國政府ハ本條約ノ規則ニ準據スル航空規則ノ適用ヲ平和條約ニ依リ約シタル諸國ニ本條約ノ認證牒本ヲ送付スヘシ

千九百十九年十月十三日巴里ニ於テ本書一通ヲ作成シ佛蘭西共和國政府ノ記録ニ之ヲ寄託保存ス

本書ノ認證牒本ハ各締約國ニ之ヲ送付スヘシ

上記ノ日附ヲ有スル右ノ本書ハ千九百二十年四月十二日ニ至ル迄之ニ署名スルコトヲ得

右證據トシテ左規全權委員ハ各其ノ全權委任狀ノ良好妥當ナルヲ認メ本條約ニ署名セリ

本條約ハ佛蘭西語、英吉利語及伊太利語ヲ以テ作成セラレタリ

相違アル場合ハ佛蘭西語ノ本文ニ依ル

(全權委員署名略) (第一附屬書乃至第八附屬書略)

改正 左ノ各議定書ニ依リ下記ノ各條カ改正セラレタリ

(1) 千九百二十二年十月二十七日「ロンドン」ニテ作成セラレタル議定書 第五條

(2) 千九百二十三年六月三十日「ロンドン」ニテ作成セラレタル議定書 第三十四條

(3) 千九百二十九年六月十五日「パリ」ニテ作成セラレタル議定書 第三條、第五條、第七條、第十五條、第

第十五 日葡間航空協定の參照 國際航空條約

三十四條、第三十七條、第四十一條第四十二條及末文
(4) 千九百二十九年十二月十一日「パリ」ニテ作成セラレタル議定書 第三十四條及第四十條

(參考) 軍用航空機ノ相互通

過ニ關スル米墨協定

軍用航空機ノ相互的通過ヲ容

易ナラシムル爲ノ「メキシコ」

國「アメリカ」合衆國間協定

千九百四十一年四月一日
「ワシントン」ニ於テ署名
年四月二十五日
同「ワシントン」ニ於テ批准書交換
年同月同日ヨリ實施

「メキシコ」國大統領陸軍大將「マヌエル、アヴィラ、カマーチオ」及合衆國大統領「フランクリン、デイー、ロ

「ズヴェルト」ニ依リ夫々任命セラレタル「メキシコ」國特命全權大使「ドクトル、フランシスコ、カステイリイオ、ナーヘラ」及「アメリカ」合衆國國務次官「サムナー、ウエルズ」ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之ガ良好妥當ナルヲ認メタル後且其ノ政府ヨリノ訓令ニ從ヒ下ノ如ク即チ「メキシコ」國及合衆國ノ兩國ハ現在ノ「ヨーロッパ」戰爭ヨリ生ジタル例外的事情ニ鑑ミ、航空ニ關スル「アメリカ」大陸ノ防衛ニ必要ナル行動ノ爲ニ最大速力ノ條件ヲ確保スルノ必要ヲ考慮シ、兩國ノ西半球防衛ノ任務ニ關シ兩國ニ依リ實質的且有效ナル協力ヲ結成センコトヲ欲シ竝ニ兩國ノ法律上ノ平等ニ對スル最高ノ敬意ト兩國ノ主權ニ對スル最高ノ尊重トヲ以テ左ノ條項ニ從ヒ自國ノ領土及領水ニ依リ軍用航空機ノ相互的通過ヲ許可スルコトヲ約シタルコトヲ宣言ス

第一條 締約國ガ本協定ニ依リ互ニ許與スル相互特惠ハ兩國ノ何レカノ一方ニ對スル武力侵略ノ脅威ノ可能性アル現在ノ狀態ノ存續期間中ニ限り且兩國政府ガ其ノ相互防

衛ノ必要上必要ナリト認ムル場合ニ於テ有效ナルベシ

第二條 「ハバナ」ニ於テ開催セラレタル第二回外務大臣會議ノ決議ニ鑑ミ「メキシコ」國及合衆國ハ各自ノ領土及領水ヲ他方ノ國ノ軍用ノ陸上航空機及水上航空機ガ型、數、飛行度數竝ニ搭載セララルル人員及物ニ關スル制限ナクシテ自由ニ通過スルコトヲ許可スベシ

第三條 一方ノ政府ハ他方ノ領域上ヲ飛行セシメント欲スル航空機ノ自國領域ヨリノ出發ニ關スル公ノ通告ヲ少クトモ二十四時間前ニ他方ニ對シ與フルコトヲ約ス右通告ニハ航空部隊ノ數及機型、飛行路、陸上航空機及水上航空機ガ定期著陸ヲ爲サントスル陸上及水上空港竝ニ搭載セララルル右航空機ノ乗員及私人ノ數ヲ明記スベシ

第四條 一方ノ政府ノ陸上航空機及水上航空機ハ他方ノ政府ノ地上及領水上ノ飛行ニ關シ他方ノ政府ガ豫メ決定シタル通路ノミヲ使用スベシ各政府ハ又各自ノ領域ノ境界内ノ定期著陸場ヲ決定スベシ

本協定ニ掲ゲラルル飛行ハ前項ニ掲ゲラルル通路及場所

ガ指定セララルル迄ハ行ハルルコトナカルベシ

第五條 一方ノ政府ハ右航空機ガ他方ノ領土又ハ領水内ノ一切ノ陸上及水上空港ノ使用ヲモ含ミテ他方ノ領土ノ通過ニ二十四時間ヨリ多クヲ費サザルノ義務ヲ負擔ス但シ天災ノ場合ハ此ノ限ニ在ラザルベク此ノ場合ニ於テハ滞在ハ被通過地域ノ所有政府ガ必要ト認ムル期間ノ間延長セララルルコトヲ得

第六條 締約國ノ一方ノ軍用航空機ニシテ特ニ指定セラレタル他方ノ領域内ノ地點ノ何レカニ著陸スルモノハ他方ガ自國ノ法令ニ從ヒ供給スルノ意思ヲ有スルコトアルベキ燃料、食物、豫備品等ニ限り供給セララルルノ權利ヲ有スベシ但シ如何ナル場合ニモ航空機ハ之ヲシテ自國ノ法域内ニ在ル最モ近キ補給所ニ到達スルコトヲ得シムルニ充分ナル燃料、食物、豫備品等ヲ拒絶セララルルコトナカルベシ

第七條 各政府ハ自國ノ領域内ニ於テハ自國ノ軍隊ヲ以テ航空機ノ著陸ノ爲陸上又ハ水上ニ指定セラレタル地點ヲ

保護スベシ何レカノ一方ノ政府ガ右目的ノ爲ノ材料又ハ設備ニシテ他方ノ政府ガ之ヲ供給シ得ルモノヲ必要トスルトキハ問題ハ討議ノ目的ト爲ルベク供給セララルル材料又ハ設備ハ協定セララルルコトアルベキ條項及條件ニ依ルベシ

第八條 「アメリカ」大陸ニ對スル武力侵略ノ脅威ノ可能性アル現在ノ狀態ハ本協定ヨリ生ズル相互の特惠ニ關スル限ニ於テハ「メキシコ」國及合衆國ノ政府ガ共ニ右狀態ノ存在スルコトヲ認ムル限り存在スベシ本協定ヲ生ゼシメタル事態ガ解消シタリト思考スル旨ノ締約國ノ一方ニ依ル他方ヘノ單ナル通告ガ本協定ニ掲ゲラルル特惠及義務ヲ完全ニ終了セシムルニ充分ナルベキハ明白ナルモノトス右通告ハ通常ノ外交手續ニ依リ又ハ一方ノ政府ニ依リ他方ニ對シ直接ニ與ヘラルルコトヲ得何レカノ一方ノ締約國ノ航空機ニシテ右ノ一方的通告ガ與ヘラレタル際ニ通過中ノモノハ他方ノ領域ヲ去ル爲ニ二十四時間ヲ有スベシ

第九條 本協定ハ各政府ノ憲法上ノ機關ニ依リ批准セラレタルトキハ批准書交換ノ日ヨリ實施セラルベシ批准書ノ交換ハ成ルベク速ニ「ワシントン」市ニ於テ行ハルベシ

右證據トシテ且前記ノ權限ヲ以テ「メキシコ」國大使及「アメリカ」合衆國國務次官ハ千九百四十一年四月一日「ワシントン」市ニ於テ「スペイン」語及「イギリス」語ヲ以テ
二通作成セラレタル本協定ニ署名調印ス

「メキシコ」國大使

フランシスコ、カステイリョ、ナーヘラ (印)

國 務 次 官

サムナー、ウエルズ (印)

第十六 永代借地制の解消

外務當局談

(昭和十七年三月二十七日)

本邦に於ける永代借地権は屢次の條約改正に不拘不平等條約の遺物として殘存し居りたるを以て帝國は斯る屈辱的制度の速なる消滅を期し多年努力し來りたる結果昭和十二年に至り諸外國との間に本年四月一日限り永代借地制度を解消せしむるの條約を締結するに至りたるが今般右條約の規定に基き國內手續として永代借地権の整理に關する別紙要旨の勅令の公布を見たり。

【勅令要旨】

一、明治三十四年法律第三十九號第一條第一項ニ規定スル永代借地権ヲ有スル者ハ昭和十七年四月一日其ノ權利ノ

目的タル土地ノ所有權ヲ取得スルコト

一、明治三十四年勅令第七十九號第三條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ所有權ノ取得アリタル場合ニ之ヲ準用スルコト

【資 料】

永代借地権ハ不平等條約ニ基キ我國ノ負ヒタル義務ノ名殘ニシテ一日モ速ニ之ヲ撤廢スルノ要アルコト勿論ナルノミナラス永代借地及其ノ上ノ建物ニ對シテハ原則トシテ課税シ得ス地方行政財政上多大ノ不利不便アリタルニ依リ政府ハ永年ニ互リ關係各國ト折衝ノ結果昭和十二年ニ至リ英、米、佛、伊、葡、蘭、瑞西、丁抹トノ間ニ本年四月一日ヲ以テ永代借地権ヲ土地所有權ニ轉換スルノ公文ヲ交換スルコトヲ得タリ。

然ルニ右交換公文ノ規定ニ依レハ永代借地権ノ土地所有

權へノ轉換ハ國內法令ノ規定ニ依ルヘキ旨定メラレアルヲ以テ今般本勅令ヲ公布スルコトナレリ

本勅令第一項ハ明治三十四年法律第三十九號第一條第一項ニ規定スル永代借地權ヲ有スル者ハ昭和十七年四月一日ヨリ其ノ權利ノ目的タル土地ニ付所有權ヲ取得スル旨ヲ規定シ居ル處右規定ハ同法律ノ目的トスル内地ノ永代借地ニ限り適用セラレ朝鮮臺灣ニ在ルモノニハ及ハサルモノニシテ又公文ノ交換ヲナシタル諸外國ノ國民以外ニ事實上永代借地權ノ享有ヲ認メラレタル中國人等ノ永代借地權モ本年四月一日ヲ以テ所有權ニ轉換セラル、モノトス。

第二項ニ於テハ所有權ノ取得アリタル場合永代借地權ヲ目的トシタル權利、例ヘハ抵當權ノ如キ權利ヲ有スル第三者アルトキハ其ノ權利ハ所有權ヲ目的トシタルモノトシテ存續スル旨ヲ規定シ永代借地權ノ所有權へノ轉換ニ伴フ第三者ノ永代借地權上ニ有シタル權利ノ保護ヲ計リタリ。

第十七 帝國の利益保護國

帝國利益保護に關する外務省

告示

(昭和十七年一月二十七日)

敵國及帝國との國交斷絶國に於ける帝國の利益保護國左の通り。

一、米 國

帝國政府は米本國に於ける帝國の利益保護をスペイン國に委託し、米領ハワイに於ける帝國の利益保護をスウェーデン國に委託し、米領東サモアに於ける帝國の利益保護をスイス聯邦に委託せり

二、英 國

帝國政府は英本國、オーストラリア聯邦及其の屬地、フ

第十七 帝國の利益保護國

イージー其の他の英領西太平洋諸島、ニュー・ジールランド及其の屬地及西部サモア、海峽植民地マレー聯邦州及非聯邦州、インドの内在本ンベイ帝國領事官管轄區域、ケニヤ植民地及保護領、ウガンダ保護領、タンガニイカ委任統治地域及ザンジバル保護領に於ける帝國の利益保護をスイス聯邦に委託し、カナダに於ける帝國の利益保護をスペイン國に委託し、南アフリカ聯邦、インドの内カラチ及カルカッタ帝國領事官管轄區域、ビルマ及セイロンに於ける帝國の利益保護をスウェーデン國に委託せり

三、ラテン・アメリカ諸國

帝國政府はキューバ國、パナマ共和國、コロンビア共和國及ヴェネズエラ合衆國に於ける帝國の利益保護をスペイン共和國に委託し、メキシコ國に於ける帝國の利益保

四〇七

護をポルトガル國に委託せり

四、其他

帝國政府は蘭領インド、エジプト國、並に佛領ニュー・カレドニア及其の屬地、佛領太平洋植民地及英佛共同管理地域ニュー・ヘブリデスに於ける帝國の利益保護をスイス聯邦に委託し、イラーク國に於ける帝國の利益保護をトルコ國に委託し、フランス國委任統治下に在る東方諸國に於ける帝國の利益保護をアルゼンチン國に委託せり

本邦に於ける米國、南アフリカ聯邦、エジプト國、パナマ共和國、キューバ國、グアテマラ國、ニカラグア國、コロンビア共和國及ヴェネズエラ合衆國の利益はスイス聯邦が保護に當り、本邦に於ける英本國、オーストラリア聯邦、カナダ及ギリシア國の利益はアルゼンチン國が保護に當り、本邦に於けるオランダ國、メキシコ國及ベルギー國の利益はスウェーデン國が保護に當ることとなれり。

◎帝國在外利益保護國一覽表

利益所 在國名	利益所在地細別	利益保護 國名
米國	米本國	スペイン
	米領ハワイ	スウェーデン
	米領東サモア	スイス
英本國	オーストラリア聯邦及屬地 フィジー其他ノ英領西太平洋諸島 ニュー・ジブランド及屬地 西部サモア 海峽植民地 マレー聯邦州及非聯邦州 インド〔ボムベイ領事館管區〕 ケニア植民地及保護領 ウガンダ保護領 タンガニカ委任統治地域 ザンジバル保護領	スイス
カナダ		スペイン
南アフリカ聯邦 インド〔カラチ及カルカッタ領事館管區〕 セイロン		スウェーデン

其 他	ラテン・ アメリカ	メキシコ	ポルトガ ル	スイ ス
蘭領インド エジプト 佛領ニュー・カレドニア及屬地 佛領太平洋植民地 英佛共同管理地域ニュー・ヘブリデ ス イラーク フランス委任統治下ノ東方諸國	キューバ、ウルグアイ、サルヴァドル、ペルー、パナマ、コロンビア、パラグアイ、ブラジル、ボリビヤ、エクアドル、ヴェネズエラ			

◎在本邦各國利益保護國一覽表

利益所 屬國名	利益保護國名
米國	南アフリカ聯邦
エジプト國	スイス
キエフ國	
ニカラグア	
ヴェネズエラ	
英本國	オーストラリア
カナダ	アルゼンチン
オランダ	スウェーデン
ベルギー	

追

録

(追録第一) 日佛及泰間了解ニ關スル議定書

一、保障及政治的了解ニ

關スル日佛間議定書

保障及政治的了解ニ關スル日

本國「フランス」國間議定書

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ昭和十六年五月九日東京ニ於テ帝國全權委員ガ「フランス」國全權委員ト共ニ署名調印シタル保障及政治的了解ニ關スル日本國「フランス」國間議定書ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十六年七月九日

(副署名略)

議定書本文

大日本帝國政府及「フランス」國政府ハ東亞ニ於ケル平和ノ維持ヲ均シク希望シ昭和十五年八月三十日往復セラレタル文書ニ依リ實現セラレタル合意ヲ成立セシムルニ至リタル平和的且友好的精神ヲ想起シ且右精神ヲ堅持スルノ眞摯ナル希望ニ均シク促サレ
「フランス」國「タイ」國間ニ恢復セラレタル友好關係ノ安定ヲ確保センコトヲ希望シ
左ノ通協定セリ

一 日本國政府ハ日本國政府ノ調停ノ結果千九百四十一年五月九日ノ「フランス」國「タイ」國間平和條約及附屬文書ニ具現セラレタル「フランス」國「タイ」國間紛争

ノ解決ガ決定的ニシテ且變更シ得ザルモノナルコトヲ「フランス」國政府ニ對シテ保障ス

二 「フランス」國政府ハ前記日本國政府ノ保障ヲ受諾ス「フランス」國政府ハ東亞ニ於ケル平和ノ維持特ニ日本國佛領印度支那間ニ於ケル善隣友好關係ノ樹立及經濟的緊密關係ノ増進ニ努ムベシ

尙「フランス」國政府ハ日本國ニ對シ直接又ハ間接ニ對抗スルガ如キ性質ノ政治上、經濟上又ハ軍事上ノ協力ヲ豫見スル何等ノ協定又ハ了解ヲモ佛領印度支那ニ關シ第三國ト締結スルノ意思ナキコトヲ宣言ス

三 本議定書ハ批准セラレベク批准書ハ署名ノ日ヨリ二月以内ニ東京ニ於テ交換セラレベシ「フランス」國政府ハ已ムヲ得ザル場合ニハ批准ノ通報書ヲ以テ其ノ批准書ニ代フルコトヲ得此ノ場合ニハ「フランス」國政府ハ成ルベク速ニ其ノ批准書ヲ日本國政府ニ送付スベシ
本議定書ハ批准書交換ノ日ヨリ實施セラレベシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本議定書ニ署名調印セリ

昭和十六年五月九日即チ千九百四十一年五月九日東京ニ於テ本文及「フランス」文ヲ以テ本書ニ通ヲ作成ス

(署名略)

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル

大日本帝國天皇(御名)此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕昭和十六年五月九日東京ニ於テ帝國全權委員ガ「フランス」國全權委員ト共ニ署名調印シタル保障及政治的了解ニ關スル日本國「フランス」國間議決書ヲ閱覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千六百一年昭和十六年七月四日東京宮城ニ於テ親ヲ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名 國璽

外務大臣 松岡 洋右

二、保障及政治的了解ニ

關スル日泰間議定書

保障及政治的了解ニ關スル日

本國「タイ」國間議定書

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ昭和十六年五月九日東京ニ於テ帝國全權委員ガ「タイ」國全權委員ト共ニ署名調印シタル保障及政治的了解ニ關スル日本國「タイ」國間議定書ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十六年七月九日

(副署名略)

議定書本文

大日本帝國政府及タイ國政府ハ

ルガ如キ性質ノ政治上經濟上又ハ軍事上ノ協力ヲ豫見スル何等ノ協定又ハ了解ヲモ第三國ト締結スルノ意思ナキコトヲ宣言ス

三 本議定書ハ批准セラルベク批准書ハ署名ノ日ヨリ二日以内ニ東京ニ於テ交換セラルベシ
本議定書ハ批准書交換ノ日ヨリ實施セラルベシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本議定書ニ署名調印セリ

昭和十六年五月九日即チ佛曆二千四百八十四年五月九日東京ニ於テ日本文及「タイ」文ヲ以テ本書ニ通テ作成ス

「署名略」

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル

大日本帝國天皇(御名)此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕昭和十六年五月九日東京ニ於テ帝國全權委員ガ「タイ」

(追録第一) 日佛及泰間了解ニ關スル議定書

東亞ニ於ケル平和ノ維持ヲ均シク希望シ

昭和十五年六月十二日ノ條約ヲ成立セシムルニ至リタル平和的且友好的精神ヲ想起シ且右精神ヲ堅持スルノ眞摯ナル希望ニ均シク促サレ

「タイ」國「フランス」國間ニ恢復セラレタル友好關係ノ安定ヲ確保センコトヲ希望シ

左ノ通協定セリ

一 日本國政府ハ日本國政府ノ調停ノ結果千九百四十一年五月九日ノ「タイ」國「フランス」國間平和條約及附屬文書ニ具現セラレタル「タイ」國「フランス」國間紛争ノ解決ヲ決定的ニシテ且變更シ得ザルモノナルコトヲ「タイ」國政府ニ對シテ保障ス

二 「タイ」國政府ハ前記日本國政府ノ保障ヲ受諾ス「タイ」國政府ハ東亞ニ於ケル平和ノ維持特ニ日本國「タイ」國間ニ於ケル善隣友好關係ノ樹立及經濟的緊密關係ノ増進ニ努ムベシ

尙「タイ」國政府ハ日本國ニ對シ直接又ハ間接ニ對抗ス

國全權委員ト共ニ署名調印シタル保障及政治的了解ニ關スル日本國「タイ」國間議定書ヲ閱覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千六百一年昭和十六年七月四日東京宮城ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名 國璽

外務大臣 松岡 洋右

三、國境劃定ニ關スル議定書

國境劃定委員會ノ構成及運用

ニ關スル議定書

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ昭和十六年五月九日東京ニ於テ帝國全權委員ガ「フランス」國及「タイ」國全權委員ト共ニ署名調印シタル國境劃定委員會ノ構成及運用ニ關スル議定書承認ノ件ヲ裁可シ茲ニ右議定書ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十六年七月九日

(副署名略)

議定書本文

大日本帝國政府、「フランス」國政府及「タイ」國政府ハ「フランス」國「タイ」國間平和條約第四條ニ規定セラルル國境劃定委員會ニ關シ左ノ通協定ス

一 構成

三國政府ハ各五名ノ委員及五名ノ補助委員ヲ任命スベシ各締約國ノ委員ハ其ノ必要ト認ムル專門家及書記ヲ帶同スルコトヲ得ベシ

委員故障アル場合補助委員ハ委員ノ職ヲ代行スルコトヲ得ベシ

委員會ノ議長ノ職ハ日本國委員中ノ一名ニ之ヲ委託スベシ

二 權限

委員會ハ條約第四條ニ規定セラルル如ク陸上及河川ノ國境ヲ實地ニ付劃定スベシ

委員會ハ右國境ノ地圖ヲ作成シ所要ノ地點ニ於ケル境界標識ノ建設ニ當ルベシ

三 運用

「フランス」國政府及「タイ」國政府ハ委員ニ對シ其ノ任務ノ遂行上必要ナル一切ノ便宜ヲ供與スベシ

委員ノ給與及旅費ハ派遣國政府ニ於テ之ヲ負擔ス

委員會ノ事業費ハ「フランス」國政府及「タイ」國政府ニ於テ折半シテ之ヲ負擔ス

委員會ハ其ノ運用ニ關スル内部規則ヲ作成スルコトヲ得ルモノトス

本議定書ハ「フランス」國及「タイ」國ニ依リ條約ト同時ニ批准セラルベシ日本國ニ付テハ本議定書ハ日本國政府ノ承認ヲ經ベキモノトス

本議定書ハ條約ト同時ニ實施セラルベシ

定書承認ノ件ヲ裁可シ茲ニ右議定書ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十六年七月九日

(副署名略)

議定書本文

昭和十六年五月九日即チ千九百四十一年五月九日、佛曆二千四百八十四年五月九日東京ニ於テ日本文「フランス」文及「タイ」文ヲ以テ本書三通ヲ作成ス

(署名略)

四、非武装履行ニ關スル議定書

非武装地帯ニ關スル規定ノ履行ニ關スル議定書

行ニ關スル議定書

朕極密顧問ノ諮詢ヲ經テ昭和十六年五月九日東京ニ於テ帝國全權委員ガ「フランス」國及「タイ」國全權委員ト共ニ署名調印シタル非武装地帯ニ關スル規定ノ履行ニ關スル議

(追録第一) 日佛及泰間了解ニ關スル議定書

大日本帝國政府、「フランス」國政府及「タイ」國政府ハ「フランス」國「タイ」國間平和條約第五條及第六條ニ定メラルル非武装地帯ニ關スル規定ノ履行ニ關シ左ノ通協定ス

一 條約第四條ニ依リ設置セラルル國境劃定委員會ハ其ノ運用ノ全期間ニ互リ條約第五條一及第六條所定ノ規定ノ履行ヲ監視スルノ任務ヲ有スベシ

右委員會ハ左ノ目的ヲ有スル規定ヲ「タイ」國政府ノ承認ニ付スベシ

イ 非武装地帯内ニ在ル「タイ」國ノ警察隊ノ性質員數

及裝備ヲ決定スルコト

ロ 「タイ」國ガ第六條一第二項ニ依リ許與セラレタル
權能ヲ行使シ得ベキ條件ヲ決定スルコト

ハ 最後ニ非武裝地帯内ニ於ケル航空ノ特殊制度ヲ決定
スルコト

右ノ外委員會ハ所定ノ規定ノ履行ヲ確保スル爲必要ト認
ムル一切ノ措置ヲ關係兩國政府ニ對シ提議スルコトヲ得
ベシ

二 國境劃定委員ガ解消シタルトキヨリ前記權限ハ必要ノ
場合各締約國ノ三名宛ノ委員ヲ以テ構成セラレ且關係國
政府ノ一ノ要求ニ基キ開催セラレベキ混合委員會ニ依リ
行ハルベシ

右委員會ノ議長ノ職ハ日本國委員中ノ一名ニ之ヲ委託ス
ベシ

本議定書ハ「フランス」國及「タイ」國ニ依リ條約ト同時
ニ批准セラレルベシ日本國ニ付テハ本議定書ハ日本國政府ノ
承認ヲ經ベキモノトス

本議定書ハ條約ト同時ニ實施セラレルベシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本議
定書ニ署名調印セリ

昭和十六年五月九日即チ千九百四十一年五月九日、佛曆二
千四百八十四年五月九日東京ニ於テ日本文、「フランス」
文及「タイ」文ヲ以テ本書三通ヲ作成ス

(署名略)

(追録第二) 第二回「アメリカ」諸共和國會議ニ於ケル

相互援助及協力ニ關スル宣言

ベシ

「アメリカ」諸國ノ防衛ノ爲ノ
相互援助及協力ニ關スル第二
回「アメリカ」諸共和國外務大
臣會議ノ宣言

千九百四十年七月二十一日乃至三十日「ハ
バナ」ニ於ケル第二回「アメリカ」諸共和
國外務大臣會議ニ於テ採擇

第二回「アメリカ」諸共和國外務大臣會議ハ

左記ヲ宣言ス

「アメリカ」ノ國ノ領土ノ保全若ハ不可侵、主權又ハ政
治的獨立ニ對スル「アメリカ」以外ノ國ニ依ル如何ナル
企圖モ本宣言ニ署名スル國ニ對スル侵略行爲ト看做サル

(追録第二) 第二回「アメリカ」諸共和國會議ニ於ケル相互援助協力ニ關スル宣言

「アメリカ」ノ國ノ領土ノ保全若ハ不可侵、主權又ハ政
治的獨立ニ對シ「アメリカ」以外ノ國ニ依リ侵略行爲ガ
行ハレタル場合又ハ侵略行爲ガ準備セラレツツアリト信
ズベキ理由アルトキハ本宣言ノ署名國ハ執ルコトヲ可ナ
リトスルコトアルベキ措置ヲ協定スル爲相互ニ協議スベ
シ

一切ノ署名國又ハ署名國中ノ二以上ノ國ハ事情ニ應ジ本
宣言ニ掲ゲラルル侵略ノ場合ニ於テ防衛ノ爲ノ協力ヲ組
織スル爲必要ナル補足協定及右ノ場合ニ於テ相互ニ與フ
ベキ援助ヲ商定スベシ

(追録第三) 敵國共同宣言

聯合國共同宣言

「アメリカ」合衆國、「グレート、
 ブリテン」及北部「アイルラン
 ド」聯合王國、「ソヴェエト」社
 會主義共和國聯邦、中華民國、
 「オーストラリア」、「ベルギー」
 國、「カナダ」、「コスタ、リカ」
 國、「キューバ」國、「チエツコスロ
 ヴアキア」國、「ドミニカ」共和
 國、「サルヴァドル」國、「ギリシ
 ア」國、「グアテマラ」國、「ハイ

テイ」國、「ホンデユラス」國、
 「インド」、「ルクセンブルグ」
 國、「オランダ」國、「ニュー、ジ
 ーランド」、「ニカラグア」國、
 「ノールウェー」國、「パナマ」
 國、「ポーランド」國、南「アフリ
 カ」及「ユーゴスラヴィア」國
 ノ共同宣言

千九百四十二年一月一日
 「ワシントン」ニ於テ署名

本宣言ノ署名國政府ハ
 大西洋憲章トシテ知ラルル千九百四十一年八月十四日附

「アメリカ」合衆國大統領並ニ「グレート、ブリテン」及
 北部「アイルランド」聯合王國總理大臣ノ共同宣言ニ包含
 セラレタル目的及原則ニ關スル共同綱領書ニ賛意ヲ表シ
 右政府ノ敵國ニ對スル完全ナル勝利ガ生命、自由、獨立及
 宗教的自由ヲ擁護スル爲並ニ其ノ國土ニ於テ及他ノ國土ニ
 於テ人類ノ權利及正義ヲ保持スル爲ニ必須ノモノナルコト
 並ニ右政府ガ世界ヲ征服セント努メツツアル野蠻且獸的ナ
 ル軍隊ニ對スル共同ノ鬭爭ニ現ニ從事シ居ルモノナルコト
 ヲ確信シ左ノ如ク宣言ス

千九百四十二年一月一日「ワシントン」ニ於テ作成ス

(署名略)

(一) 各政府ハ三國條約ノ締約國及該條約ノ加入國ノ中右
 政府ガ之ト鬭爭ヲ行ヒツツアルモノニ對シ右政府ノ軍事
 的又ハ經濟的ノ全部ノ資源ヲ使用スルコトヲ誓約ス
 (二) 各政府ハ本宣言ノ署名國政府ト協力スルコト及敵國
 ト單獨ノ休戰又ハ講和ヲ爲サザルコトヲ誓約ス
 前記宣言ハ「ヒトラー」主義ニ對スル勝利ノ爲ノ鬭爭ニ於
 テ物質的ノ援助及貢獻ヲ爲シ又ハ爲スコトアルベキ他ノ國
 ニ依リ加入セララルコトヲ得

(追録第三) 敵國共同宣言

昭和十七年十二月五日印刷
昭和十七年十二月十日發行

(出文協承認あ)
340048號



元給配

日本出版配給株式會社
東京市神田區淡路町二丁目九番地

編者 松原一雄

發行者 鳥飼善吉
東京市本郷區森川町七十一番地

印刷者 植田銀次郎
東京市本郷區菊坂町六十一番地
會員番號東東一五三六番

發行所 育成洞
東京市本郷區森川町七十一番地
帝大正門前(市電停留場市バス停留場)

日本出版文化協會
報發東京一七三三四番
電話小石川四〇七八一
會員番號一〇二〇〇三番

定價金三圓八十錢

最近國際法及外交資料 三〇〇〇部

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

Doc. No. 2479

23 July 1946

ANALYSIS OF DOCUMENTARY EVIDENCE

DESCRIPTION OF ATTACHED DOCUMENT

Title and Nature: Printed book "Recent International Laws and Materials of Diplomatic Affairs" by MARSUBARA, Kazuo

Date: 1940-42 Original Copy Language: Japanese

Has it been translated? Yes No

Has it been photostated? Yes No

LOCATION OF ORIGINAL

Document Division

SOURCE OF ORIGINAL: East Asia Research Institute, Tokyo

PERSONS IMPLICATED:

CRIMES TO WHICH DOCUMENT APPLICABLE:

SUMMARY OF RELEVANT POINTS

Book contains copies of numerous treaties, agreements, official communiques, speeches by government officials, etc., dating from the message given to the U.S. Gov't after the Pearl Harbor attack on 7 Dec 41 to treaties, agreements, etc., concluded to Dec 42. Included also are such agreements as the Anti-Comintern and Tri-Partite Pacts and withdrawal from the League of Nations, 1933 - 1940, etc. A complete listing is available in scanning sheets enclosed within document.

Analyst: 2d Lt Blumhagen

Doc. No. 2479

2479

by
K. Chang

Title: Recent International laws and
Materials of diplomatic affairs

Author: Kazuo MATSUBARA (Dr of Law)

Published: Dec. 1942.

Contents:

Preface: This book contains chiefly the miscellaneous international facts, occurred on or about the breaking out of the Pacific war, especially treaties agreements etc relating to the International laws and diplomatic affairs which directly or indirectly have some significance to the Pacific war.

As the contents are nothing but the gathering of the facts, there contains no explanatory writings whatever.

A. Diplomatical affairs:

I. Broke out of the Pacific war.

- Japanese
- (1) Statement of the Government about the Pacific war.
 - (2) (made public at noon 8th Dec 1941)
 - (2) Diplomatic negotiations between Japan and the United States of America.
(made public on 8th Dec 1941 by the foreign office)
 - (3) Message given to the United States of America from the Japanese Government through U.S.A. Ambassador in Tokyo on 8th Dec, 1941. 7.30 AM by Tōgō the foreign Minister.
 - (4) Speech made by the foreign Minister Tōgō in the parliament on the 16th Dec 1941.
 - (5) List of the countries and states (excluding Great Britain and U.S.A) which are in hostilities against Japan.

II. Treaties and agreements

2479

(1) This Partite Pact signed by Japan, Germany and Italy, 27th Sept. 1940. at Berlin, promulgated on the official Gazette, 21st Oct., 1940.

(2) Anti-Comintern Pact, signed by Japan and Germany 25th Nov., 1936. at Berlin and promulgated - 27th Nov.,

△ Italy joined into this pact on 6th Nov., 1937. at Rome; promulgated 9th Nov., 1937.

△ Prolongation of the period of effectiveness for 5 years, signed on the 25th Nov., 1941. at Berlin.

△ Culture or Civilization Treaty signed by Japan and Germany on the 25th Nov., 1938 at Tokyo.

- △ Friendship Treaty between Germany and Italy signed on the 22nd May 1939 at Berlin.
- △ Hungary entered into the Tri-Partite pact signed on the 20th Dec., 1940. at Wien. promulgated on the official Gazette, on the 21st Jan., 1941.
- △ Rumania entered into the Tri-Partite pact. signed on the 23rd Nov., 1940, at Berlin promulgated on the 21st Jan., 1941. on the official Gazette.
- △ Slovakia came into the Tri-Partite pact. signed on the 24th Nov., 1940 at Berlin. Promulgated on the 21st Jan., 1941, on the official Gazette.
- △ Bulgaria joined into the Tri-Partite Pact, signed on the 1st Mar., 1941. at Wien. Promulgated on the official Gazette.

5th April 1941.

△ Croatia joined in to the Tri-Partite pact signed on the 15th June 1941. at Venice.

(3) "No separate peace pact" agreed between Japan, Germany and Italy, signed on the 17th Dec. 1941. at Berlin. p. 38.

(4) Treaty ^{of alliance} between Japan and the Kingdom of Thailand signed on the 21st Dec. 1941. in Bangkok. promulgated on the official Gazette 29th Dec. 1941. p. 41.

△ Treaty of friendship and mutual respect between Japan and the Kingdom of Thailand. signed on the 12th June 1940, at Tokyo. promulgated on the 28th Dec. 1940. p. 43.

III. Neutral Treaties

o Part of Neutrality) ^{concluded} between Japan and the Union of Soviet Socialist Republics. signed on the 13th April 1941. at Moscow promulgated on the 30th April 1941. P. 45

IV Cooperative defense

Agreement concluded between Japan and Vichy Government of France relating to the cooperative defense of French-Indo-China, signed on the 29th July 1941. at Vichy, promulgated on the 2nd August 1941. P. 48.

a Announcement of Army and Navy division of Imperial Headquarters, of the peaceful Marching of Japanese Army to the north area of French Indo China. (made on the 23rd Sept 1940) P. 49.

△ Common Communiqué of Japan and the Vichy Government of France about the marching of Japanese Army into the territory of French-Indo-China.
(made public 5. p. M. 27th Sept., 1940)

△ Treaty relating to traveling and residing of Japanese and French peoples in the territories of Japan and French Indo-China.

Signed on the 6th May 1941 at Tokyo
promulgated on the 10th July 1941. p. 50)

V. Agreement between Japan and the State of Manchukuo.

Signed on the 15th Sept., 1932.

△ Speech made by Yosuke MATSUOKA, reminding of the setting up the State of Manchukuo, made on the 15th Sept. 1940, in the 8th anniversary of the

setting up the State.

VI : Fundamental Treaty ^{and Agreements} between Japan and the Republic of China. Signed on the 30th Nov, 1940 at Nanking.

△ Common Statement made by Japan, China and the Manchukuo. made public on the 30th Nov, 1940 at Nanking.

△ Oral statement, made by Mr Suma the Chief of the Intelligence Bureau of Japanese government relating to the Common Statement of Japan, China and Manchukuo. 1. PM. 30th Nov, 1940.

△ Speech, made by Mr Suma, relating the conclusion of the Fundamental Treaty between Japan and the Republic of China made 2.30 PM. 30th Nov. 1940.

2479

Speech, by Mr ARITA, the foreign Minister of Japanese Government ^{made} on the 3rd anniversary day of the Incident. (7th July 1940.).

VII Speech, by Tōjō, the Prime Minister, made in the parliament, on the 21st Jan. 1942. p. 81

△ Speech, by Tōgō, the foreign Minister, made at the parliament, on the 21st Jan. 1942. p. 85.

△ The policy of Constructing "the Coprosperity Sphere", by the Japanese Empire. answered by Tōjō, the premier, to the interpellation of the Members of the Parliament. on the 21st Jan. 1942. p. 88

△ Recent diplomatical relations between Japan and U.S.S.R. answered by Tōgō, the foreign Minister at the Diet, to the interpellation of M.P. on the 21st Jan. 1942. p. 90

△ Statement, made by the Japanese Government toward the Kingdom of the Netherlands on the 12th Jan. 1942. p. 91.

△ The policy of Japan toward India, stated by Tojō, the premier, on the 6th April 1942. p. 92.

△ Outlines of the ^{fundamental} policy of Cabinet of Prince KONOYE. 1st. August 1940.

△ Common declaration of the United Kingdom Great Britain and U.S.A on Atlantic Ocean on the 14th August 1941. (p. 95)

△ Nine-Power Treaty about China, signed 6th Feb. 1922 in Washington, promulgated on the 6th August 1925. p. 96.

B. International Law affairs.

1. Blockade declaration of the Coast of Hongkong. 8th Dec. 1941. by Admiral KOGA. on board the battleship Iyuma. p. 99

△ Paris declaration (declaration, which defines the principles of maritime laws)
signed 16th April 1856 at Paris.
Japan joined in to it in 1886. promulgated on 19th March 1887.

II. Laws of Naval battles
Japanese Law relating to Naval battles.
(War order Sea no 8. 7th Oct 1914.) p. 101

London declaration
done (not ratified)
on the 26th Feb. 1909 in London. p. 127

△ Explanation about the ^{S.S.} ASAMAMARU affair, made by ARITA, the foreign minister of Japan at that time, on the 6th Feb. 1940, in the Diet.

III. Partial alterations of ^{Japanese} Law relating to Naval Battles
dated 20th March 1942 p. 146

△ the comment of ^{the} press ASHHI on the above mentioned alteration of the law.

IV. Japanese National laws relating to the Inquiry into the war prize and treatment of prisoners of war.
dated 16th Dec. 1941. p. 156.

△ decree of Naval office, relating to the Contrabands of war.
dated 22nd Dec. 1941.

△ Alteration of the regulations relative to the
home to intern prisoners of war.
dated 23rd Dec. 1941.

△ System of organization of the information
bureau of the prisoners of war.
dated 27th Dec. 1941.

△ Alteration of the regulations about the Mail
office business for P.O.W.
dated 7th Feb. 1942.

△ Post money order regulations
dated 10th Feb. 1942.

△ Transportation (free charges) of the
goods, gifts, donations etc to the P.O.W.
dated 13th Feb. 1942.

△ Regulations relating to the
allowances to p. o. w.
dated 20th Feb. 1942.

△ Treaty on the treatment of p. o. w.
signed on the 29th July 1929 at Geneva.
(not ratified by Japan) p. 164.

V. Administration and control of Enemy property.

1. Law of Administration of Enemy Property.
(Law no. 99. 22th Dec., 1941) p. 186.

2. Executing ordinance of the Law of
Administration of Enemy Property.
(order no. 1179. dated 22nd Dec. 1941) p. 188.

3. Existing regulations of the Law of Administration
of enemy property (Finance office order no 76.)

dated 23rd Dec., 1941.

4. Korea, Formosa and Saghalien under
the Law of administration of enemy property.
(order no. 1178, 22nd Dec., 1941)

5. Administration of enemy property
in the Southern Sea Islands.
(order no 1180. 22th Dec. 1941).

6. Kwantung Province under the Law of
administration of enemy property excluding
article no. 11.

(order no 1251. 27th Dec. 1941).

7. Enemy States described
(dated 16th Jan. 1942)

Δ. Explanation of the reasons of
the enactment of the ^{Law of} administration
of enemy property. given to the Diet.
(178th session of the Diet)

VI. Military administration in the occupied areas

- △ agreements etc. relative to the Keeping order and laws in Manila.
(7th. Jan. 1942).

III. The Hague Convention for the Pacific Settlement of International Disputes, signed at ^{the} Hague 18 October 1907. ratified on the 6th Nov., 1911. promulgated 13th Jan., 1912.

P. 198

- △ Treaty relative to the restriction on the using of force in way of getting back the credit arising from Contract, signed at Hague 18th Oct., 1907. ratified on the 6th Nov., 1911. promulgated on the 13th Jan., 1912.

△ The Hague Convention relative to the opening of Hostilities, signed on the 18 October 1907. at Hague. ratified on the 6th Nov. 1911. promulgated on the 13th Jan. 1912. p. 218

△ Ultimatum to Germany from Great Britain dated 3rd. (9. A.M.) Sept. 1939. p. 220

△ Treaty relative to the laws and customs in War on Land. signed 18 October, 1907. at Hague. p. 221

△ Convention respecting the Rights and duties of Neutral powers and persons, in war on land, signed at Hague 18 October 1907 p. 232

△ Convention concerning to the treatment of enemy mercantile ships at the time of opening of hostilities. signed 18. October 1907. at Hague. p. 237.

△ Convention concerning to the change the mercantile ship to the battle ship. signed 18. October 1907 at Hague. p. 241

△ Convention concerning to the laying mines in sea. signed 18. October 1907. at Hague. p. 242

△ Convention concerning to the bombardment by the naval force at the time of war. (signed 18. October 1907 at Hague p. 246

△ Treaty relating to the application of the Convention of "Geneva" to the Sea war force. signed 18 Oct. 1907. at Hague. P. 249.

△ Treaty relative to the restriction on the exercising the right of capture in the Sea Battle, signed 18 Oct. 1907 at Hague. P. 256.

△ Treaty concerning to the rights and duties of Neutral powers in War on Sea. signed at Hague 18 October 1907. P. 259.

△ Last agreement in the 2nd International Conference, signed 18 October 1907 at Hague. Promulgated 13 Jan. 1912. P. 265.

VIII. The Red-Cross Convention.

△ Treaty relating to the improvement of the conditions of the sick and ^{the} wounded in the troops on the front. Signed 27 July 1929 at Geneva. Ratified 26 October 1934, promulgated 7th May 1935. p 269

△ Japanese Hospital ship (Harbin Maru) attacked and sunk by enemy submarine. made public by the Imperial Headquarters 11.38 AM. 14 Jan. 1942.

△ News on the Press ASATHI (no 20075) Sanitary men ^{were} training the bombardment under the flag of the red cross.

IX. Laws and regulations in War ^{P. 279} in the air.

only the information of the draft.
(made during Dec 1922 - Feb. 1923 at Hague)

△ Regulations concerning to the
wireless communication in the time
of war. (Draft) done at Hague. 1922-1923

X Affairs of Neutrality

p. 296

1. Declaration of Panama of 3rd October
1939. Decided on the day in the
conference of foreign Ministers of the
republics of America. at Panama.

p. 296

2. Notes exchanged between Great-
Britain and U.S.A. concerning to the
Lease of the Strategical Bases.
signed at Washington 2nd
September 1940.

American
3. Laws concerning to the Supply
of War Weapons. got effect 11. March
1941.

p. 303.

2479

4. American Laws of Neutrality
enacted 4 November 1937. p. 308

XI. Orders relative to the Capture
of German goods, published by
Great Britain. p. 323.

XII. Treaty of Armistice.

Treaty of Armistice between Germany
and France, signed 22 June 1940

p. 325

XIII. 1. Treaty of Peace between Japan and
China. Signed 17 April 1895. at
Shimonoseki. p. 331.

2. Peace Treaty between Japan and
Russia. signed 5 September 1905
at Portsmouth. p. 335

3. Extracts from The Versailles
Treaty, made at Geneva 17 Dec.
1920. p. 329

XIV Reminding of the withdrawal of
Japan from the League of Nations
membership of

△ The notice given from Japanese foreign
minister to the Secretary General of
the League of Nations
dated 27 March, 1933. p. 37₂

△ Agreements and regulations of
the League of Nations
(Part I of the Versailles Treaty). p. 376

△ Treaty of Renunciation of War,
signed at Paris 27 August 1928.
p. 385

△ Mandate to Japan to administrate islands in Pacific Ocean. belonged to Germany. decided by the conference of the committee of the League of Nations, 17 December 1920. p. 387.

XV

Agreements between Japan and Portugal, relative to the Aerial navigation, signed 24 October 1941. at Lisbon. p. 389.

△ Treaty of International Aviation signed at Paris 13 October 1919. p. 392.

△ Treaty between U.S.A. and Mexico relative to the mutual aviation of aeroplane of war. signed at Washington 1 April 1941. p. 401.

XVI

Extinction of the perpetual lease rights on Japanese territories. (Conversation made by the authorities of Foreign Office. 27. March, 1942) . p 405

XVII

States which are in charge of the interests, rights and prestiges of Japan in the belligerents states after the opening of the war (27 January 1942) .

Appendix I .

p. 410 .

I . Agreement made between Japan, France and Thailand. signed 9. July 1940 at Tokyo.

II . Agreement relative to the assurances and the ^{political} understandings between Japan and Thailand. signed 9. July 1941. at Tokyo.

III . Agreement concerning to the fixing
upon the boundaries of the State
between Japan and Thailand, signed
9 July 1941.

IV . Agreement relative to the execution
of the provisions concerning the area
not fortified - ~~a~~ non armed.
between Japan, France and
Thailand. Signed at Tokyo, 9 May
1941.

Appendix II

Declaration relating to the mutual
help and assistance in the Conference of
the American Republics II.

decided 21-30 July, 1940 at Panama
in the Foreign Ministers Conference of the
American Republics

Appendix III

Common declaration of the
enemy states

signed 1. January 1942. at Washington.